

令和8年度芸備線再構築方針作成等に関する 調査事業(方針作成等調査事業)実施状況

令和8年7月16日
国土交通省 中国運輸局

調査事業の実施内容

- （１） 実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集
- （２） 地域経済効果の比較検討等による総合的な分析

仕様書項目および想定実施内容（1/3）

注）記載の実施時期は、現時点までに確定している「実証事業B」の実証内容・実証時期を前提としたものであり、今後「実証事業B」の実証内容・実証時期が変更された場合は、一部項目の調査実施時期も変更となる可能性がある

#	仕様書項目	実施内容	実施時期	想定する成果物
（1）実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集				
①	実証事業Aを補完するデータの収集	列車調査 （特定日・特定列車対象）	4月～6月	- 実証事業A期間中の芸備線利用者数データ - 芸備線利用者に対するアンケート調査結果
		二次交通調査 （特定日対象）	4月～6月	- 実証事業A期間中の二次交通利用者数データ - 二次交通利用者に対するアンケート調査結果
②	実証事業Bを補完するデータの収集	バス調査 （対象日・対象便調整中）	6月～9月	- 実証事業B期間中の実証バス利用者数データ - バス利用者に対するアンケート調査結果
		列車調査 （対象日・対象便調整中）	6月～9月	- 並行して運行中の芸備線利用者数データ （※6月は①と一体的に調査） - 並行して運行中の芸備線利用者に対するアンケート調査結果 （※6月は①と一体的に調査）

仕様書項目および想定実施内容（2/3）

注）記載の実施時期は、現時点までに確定している「実証事業B」の実証内容・実証時期を前提としたものであり、今後「実証事業B」の実証内容・実証時期が変更された場合は、一部項目の調査実施時期も変更となる可能性がある

#	仕様書項目	実施内容	実施時期	想定する成果物
（2）地域経済効果の比較検討等による総合的な分析				
①	地域経済効果の比較検討	地域経済効果の比較検討手法の整理	4月～5月	- 地域経済効果の比較検討手法 - 実証事業Bを補完するデータの収集方針
		実証事業Aの地域経済効果の更新	7月	実証事業Aの地域経済効果（更新版）
		実証事業Bの地域経済効果の算出	9月～10月	実証事業Bの地域経済効果
		再構築費用の精査	5月～8月	- 鉄道として再構築を行う場合の費用（更新版） - バスとして再構築を行う場合の費用（更新版）
②	最適な交通モードの判断に当たっての論点整理	比較検討対象とする交通モードの整理	5月～8月	- 比較検討対象とする交通モード - 各交通モードの他地域事例（必要に応じて適宜収集）
		比較検討の論点整理	4月～8月	- 比較検討の論点 - 比較検討の手法 - 比較検討の他地域事例（必要に応じて適宜収集）

仕様書項目および想定実施内容（3/3）

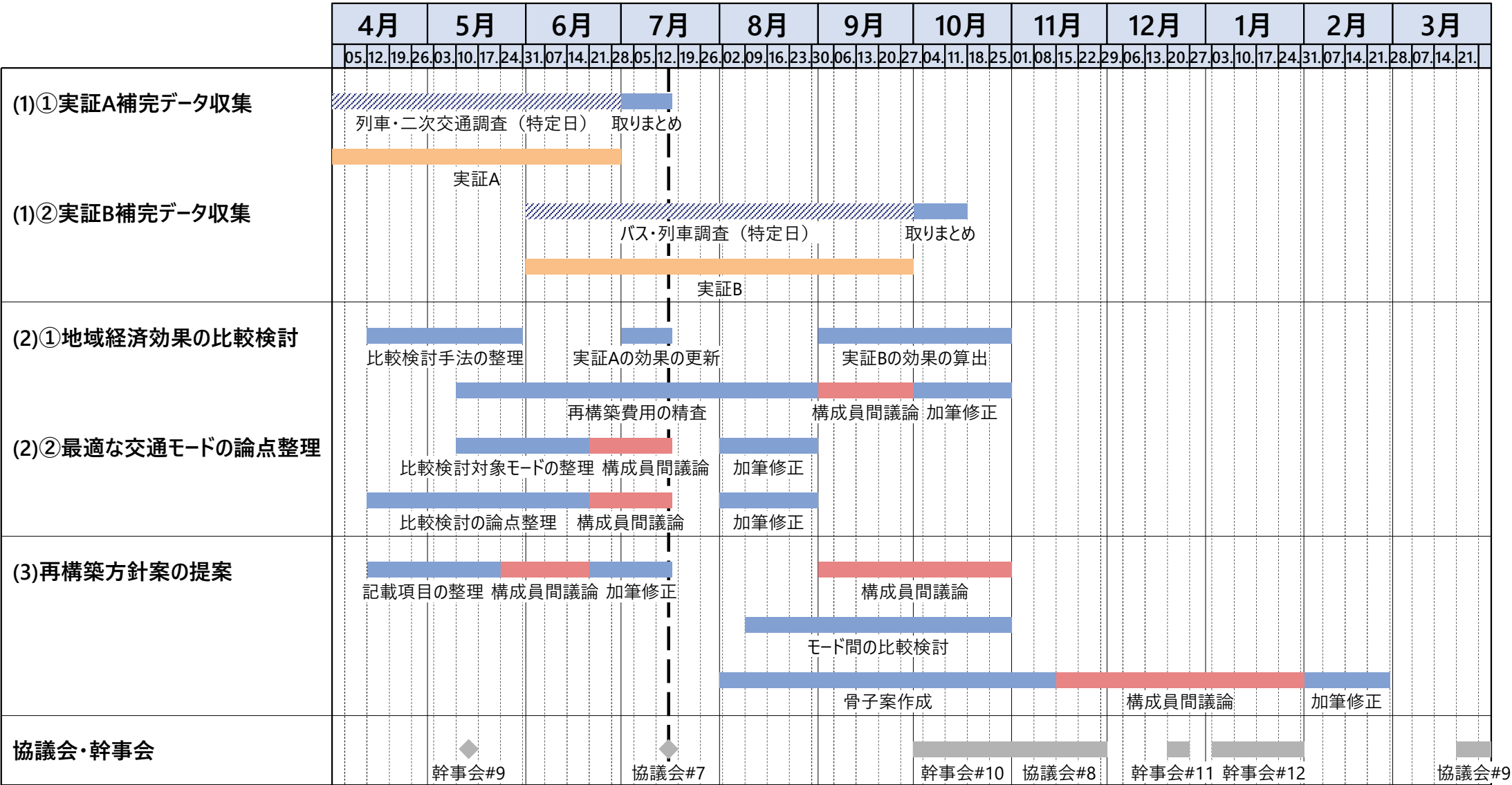
注）記載の実施時期は、現時点までに確定している「実証事業B」の実証内容・実証時期を前提としたものであり、今後「実証事業B」の実証内容・実証時期が変更された場合は、一部項目の調査実施時期も変更となる可能性がある

#	仕様書項目	実施内容	実施時期	想定する成果物
（３）再構築方針案の提案				
		再構築方針案の記載項目の整理	4月～7月	・ 再構築方針案の記載項目
		モード間の比較検討	8月～10月	・ 比較検討結果
		再構築方針の骨子案の提案	8月～11月	・ 再構築方針の骨子案
		再構築方針の骨子案の加筆修正	2月	・ 再構築方針案
（４）協議会・幹事会の運営事務補助				
		協議会・幹事会の資料作成補助、速記、議事録作成	協議会・幹事会の都度	・ 協議会、幹事会資料 ・ 協議会、幹事会速記、議事録
（５）取得データと総合的な分析結果等報告書の作成				
		報告書の取りまとめ	3月	・ 報告書

スケジュール

調査実施スケジュール ※議論の進捗に応じて適宜見直す

主に調査受託者が実施 主に構成員が実施 主に実証事業ABで実施



▲
本日

■ 調査事業の実施内容

（１）実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集

- ①実証事業 A を補完するデータの収集
- ②実証事業Bを補完するデータの収集

■ （２）地域経済効果の比較検討等による総合的な分析

■ 調査事業の実施内容

（１）実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集

①実証事業 A を補完するデータの収集

● ②実証事業Bを補完するデータの収集

■ （２）地域経済効果の比較検討等による総合的な分析

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車・二次交通調査の実施

実証Aについて、列車は、①休日全列車調査、②平日全列車調査、③休日日中調査、④平日早朝・夜間調査の4種類、二次交通は休日全実証便調査の1種類を実施した

	鉄道				二次交通
	①休日全列車	②平日全列車	③休日日中	④平日早朝・夜間	休日全実証便
ねらい	利用者数の 対昨年度比較、 R6年度概算項目の 精緻化	利用者数の 対昨年度比較、 R6年度概算項目の 精緻化	増便による観光 (・日常) 流動の 変化を深掘り	ダイヤ変更・ 延長運転による日常 流動の変化を深掘り	増便による観光 (・日常) 流動の 変化を深掘り
対象便	備後庄原駅～ 備中神代駅間 全列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 全列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 10～15時台の列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 6時台、17～23時台 の列車	実証運行の全便
調査日	9/20(土)-9/21(日)	9/17(水)-9/18(木)	8/30(土)-8/31(日) 10/25(土)-10/26(日) 11/15(土)-11/16(日) 12/13(土)、1/10(土) 2/7(土)、2/21(土) 3/7(土)、3/21(土) 4/18(土)、4/25(土) 5/2(土)、5/16(土) 6/6(土)、6/13(土)	10/29(水)-10/31(金) 11/17(月)-11/19(水) 12/8(月)-12/10(水) 1/13(火)-1/15(木) 2/4(水)-2/5(木) 3/2(月)-3/3(火) ※12月以降は乗車人数 のみを調査	エリアによって異なる

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

列車調査について、5月までは昨年度と同様の内容としたが、
実証Bと並行する6月の調査においては、一部の設問を追加・削除して実施した

- 列車内で回答する負荷を踏まえて、A4で片面2ページ以内、番号選択式とした。
 - スペースの都合上、芸備線を利用したきっかけ、観光や宿泊の有無については削除とした。

調査項目（6月）

新規設問

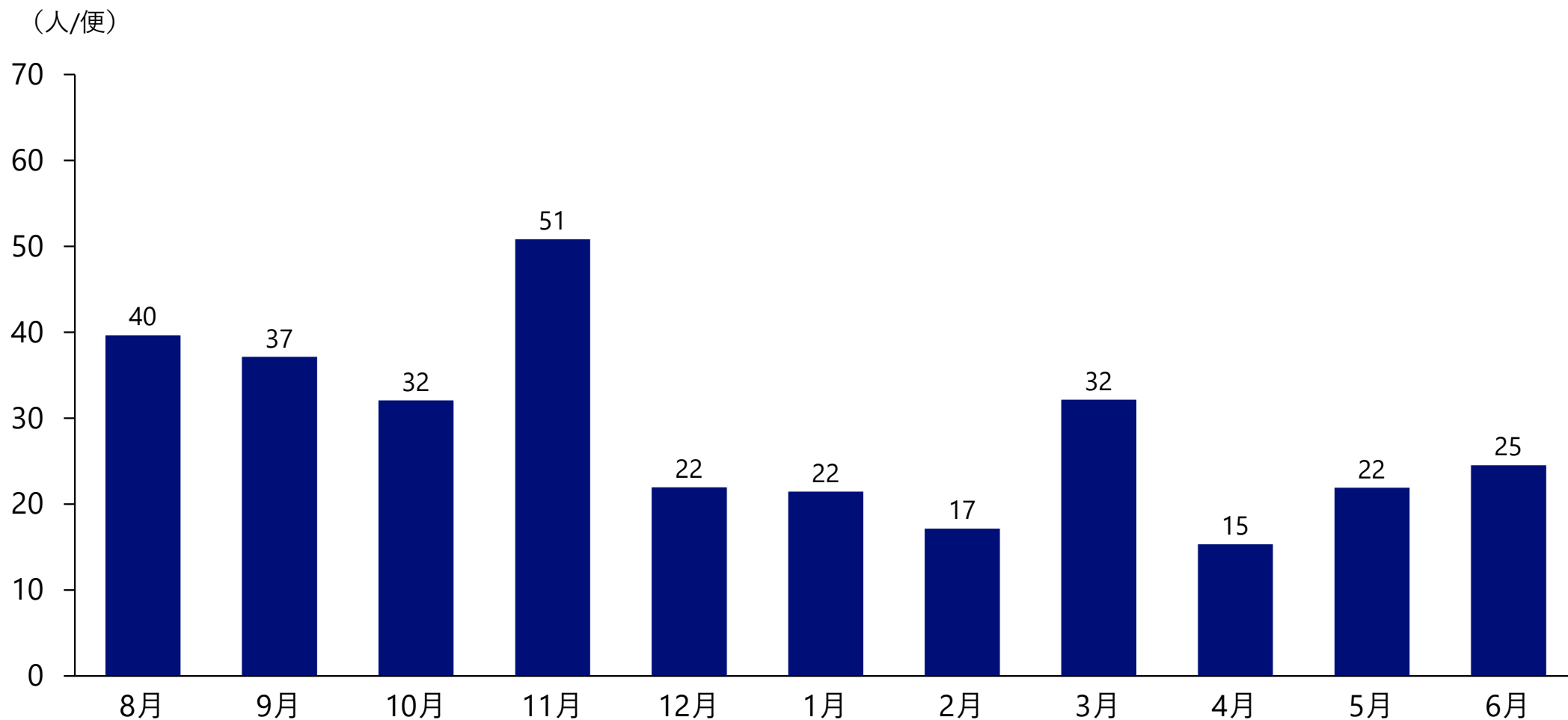
#	質問文	補足
1	ご自宅のエリアを教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
2	本日の外出の目的を教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
3	芸備線の乗車区間を教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
4	今回の一連の外出において、庄原市・新見市エリアや広島県・岡山県 エリアで使う金額を教えてください。	・ 紙面スペース上、質問文を統合。
5	本日芸備線で使用したきっぷを教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
6	もしこの列車が運休し、代替バスも無かったら、どうしていましたか。	・ 昨年度アンケートと同様。設問文の表現のみ変更。
7	問6で『芸備線の他の便を利用した』と回答した人のみお答えください。 もし芸備線の他の便も運休だとしたら、どうしていましたか。	・ 設問を追加。選択肢は「通常の路線バス・乗合タクシー／ 一般タクシー／自家用車／レンタカー／送迎／外出取りやめ／ 県内の他地域へ外出／県外の他地域へ外出／その他」とする。
8	もし芸備線が代替バスで運行されていたとしたら、どうしていましたか。	・ 設問を追加。選択肢は「代替バスを利用した／前の設問で回答 した方法で対応した」とする。
9	庄原市・新見市にお住まいの方のみお答えください。 あなたが現在の地区にお住まいの理由を教えてください。	・ 設問を追加。選択肢は過去の住民アンケートと同様。
10	問9で『鉄道路線があるから』と回答した人のみお答えください。 もし芸備線（備後庄原～備中神代）がバスで運行されていたら転居 するきっかけとなりますか。	・ 設問を追加。選択肢は「数年以内に転居／当面は転居しない／ 転居しない／分からない」とする。

実証事業A 列車（休日日中）調査結果

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

休日日中列車の利用は、8～10月は約30～40人/便、紅葉シーズンの11月は約50人/便、観光利用が落ち着く12月以降は約20人/便で推移し、季節による変動が大きかった

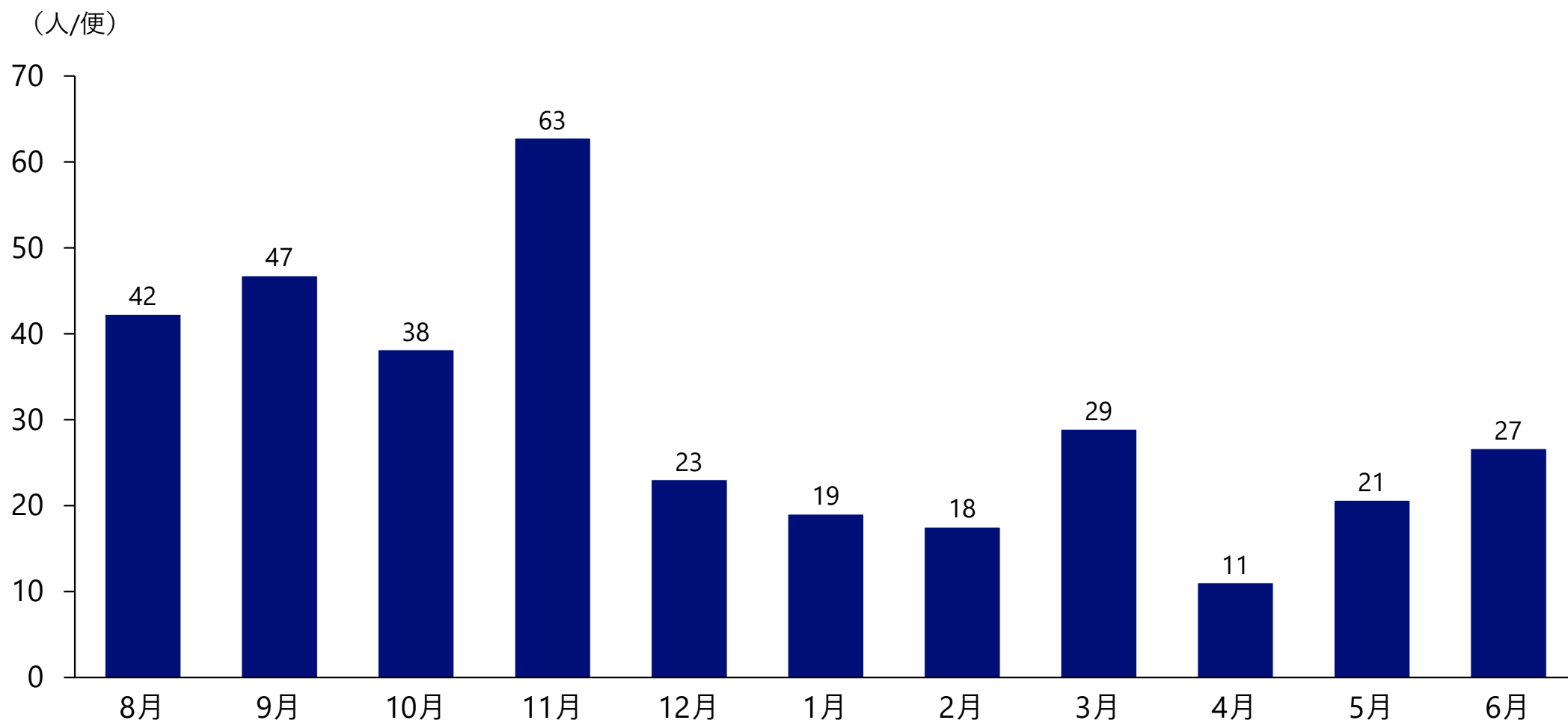
1便あたりの平均乗車人数（休日日中調査の対象便のみ、12・1月は1日間調査、その他月は2日間調査）



(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

休日日中の増便列車は、8～10月は約40～50人/便、紅葉シーズンの11月は約60人/便、観光利用が落ち着く12月以降は約20人/便で推移し、季節による変動が大きかった

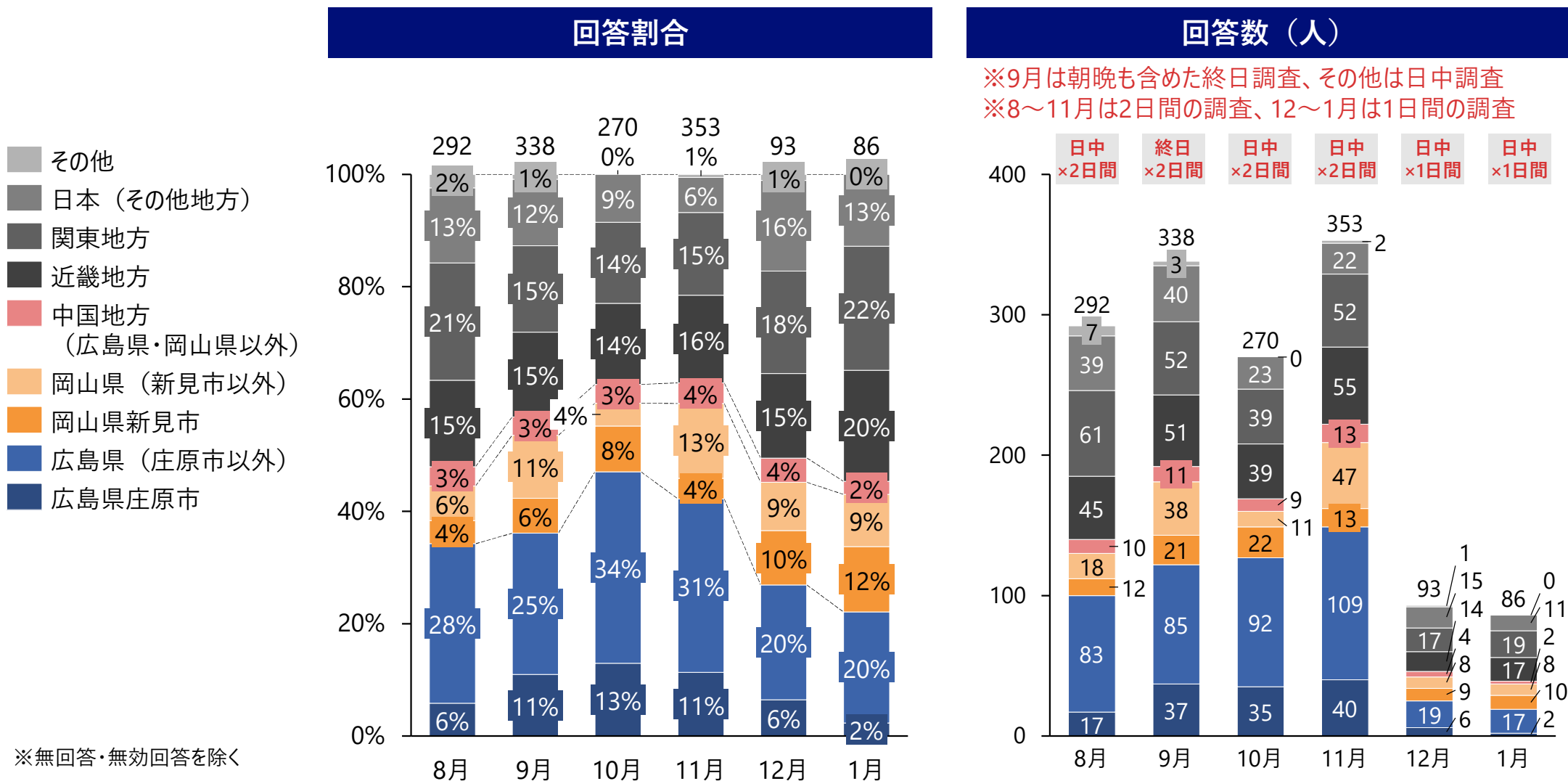
1便あたりの平均乗車人数（増便列車のみ、12・1月は1日間調査、その他月は2日間調査）



(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

遠方（中国地方以外）からの来訪者が約4～5割を占めた。実証Aイベントが本格化し観光シーズンでもあった10月、11月、4月は、比較的近隣からの来訪者が多かった（1/2）

休日アンケート調査回答者の自宅エリア



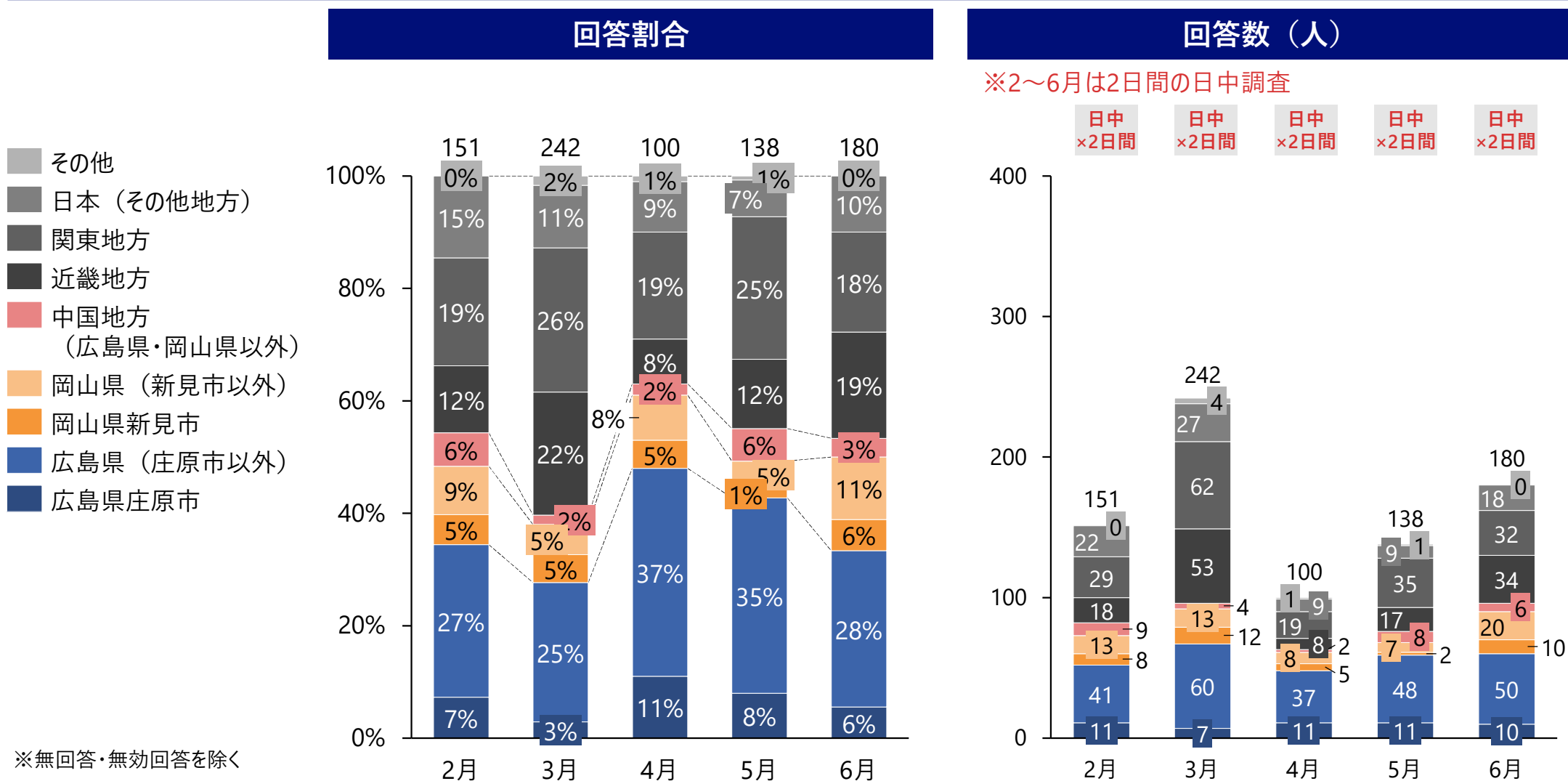
※無回答・無効回答を除く

出所）列車アンケート調査

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

遠方（中国地方以外）からの来訪者が約4～5割を占めた。実証Aイベントが本格化し観光シーズンでもあった10月、11月、4月は、比較的近隣からの来訪者が多かった（2/2）

休日アンケート調査回答者の自宅エリア

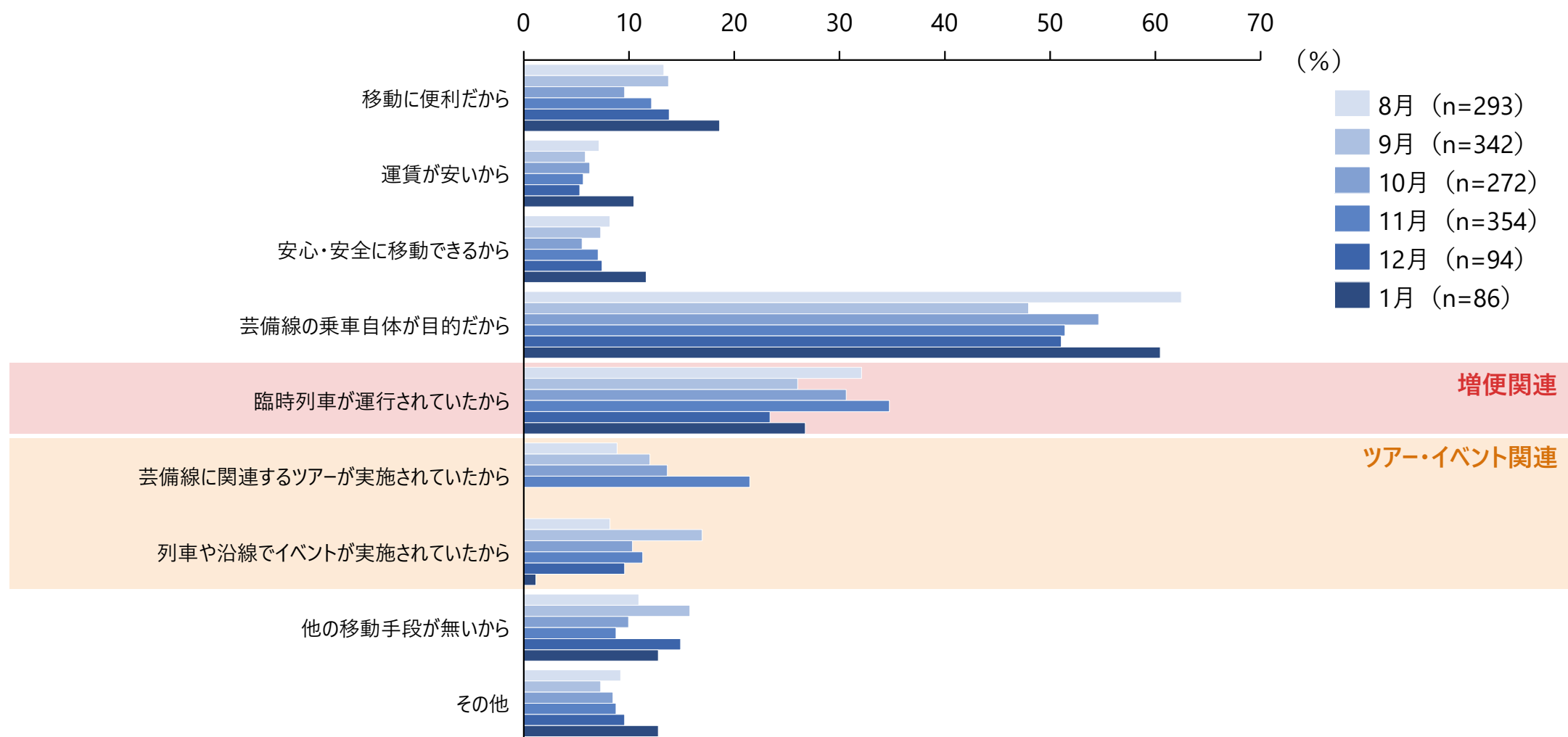


(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

利用のきっかけは、実証期間を通して「芸備線の乗車自体が目的」が最多だった（1/2）

Q. 本日芸備線を利用したきっかけを教えてください。（複数回答）

※9月は朝晩も含めた終日調査、その他は日中調査
※8～11月は2日間の調査、12～1月は1日間の調査

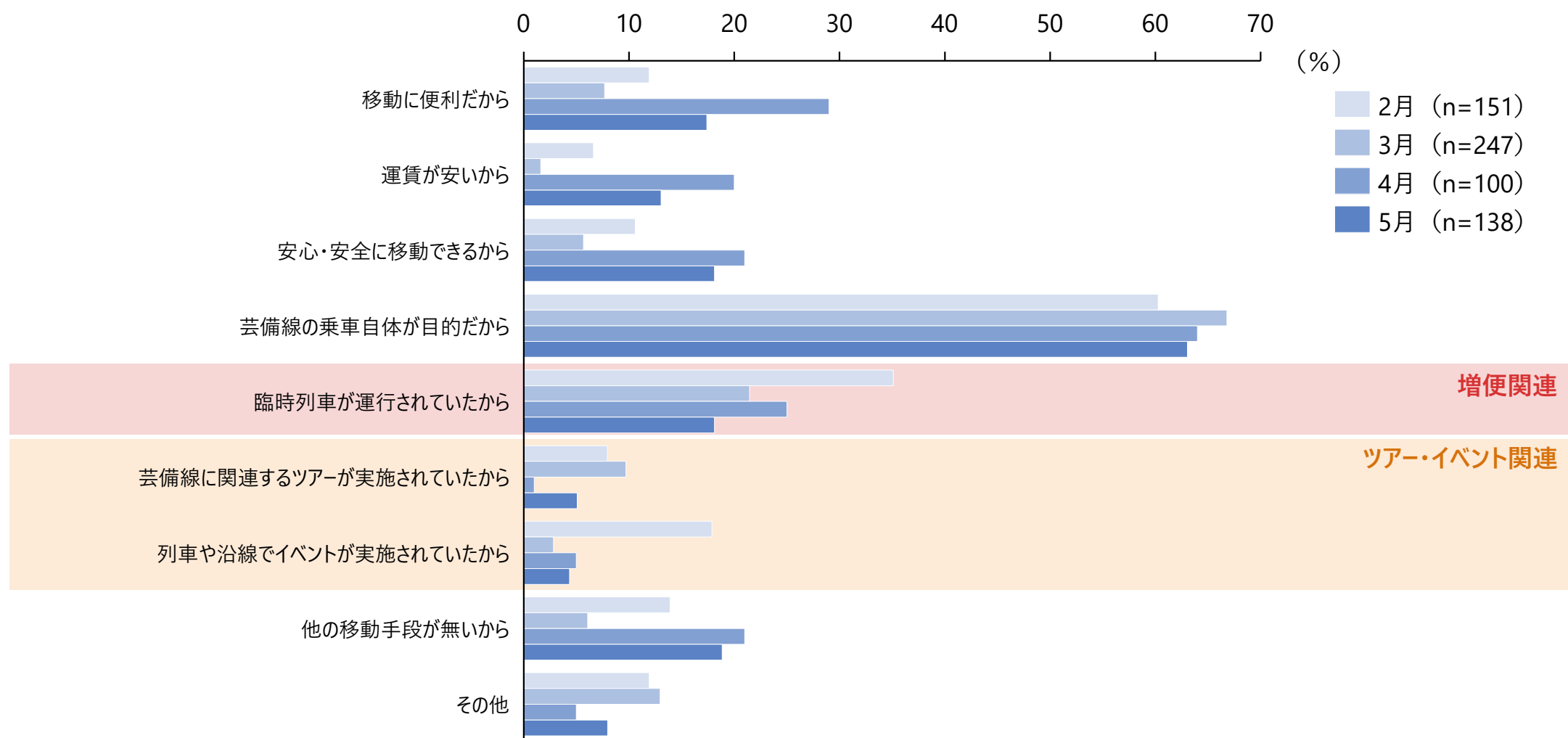


利用のきっかけは、実証期間を通して「芸備線の乗車自体が目的」が最多だった（2/2）

Q. 本日芸備線を利用したきっかけを教えてください。（複数回答）

※2～5月は2日間の日中調査

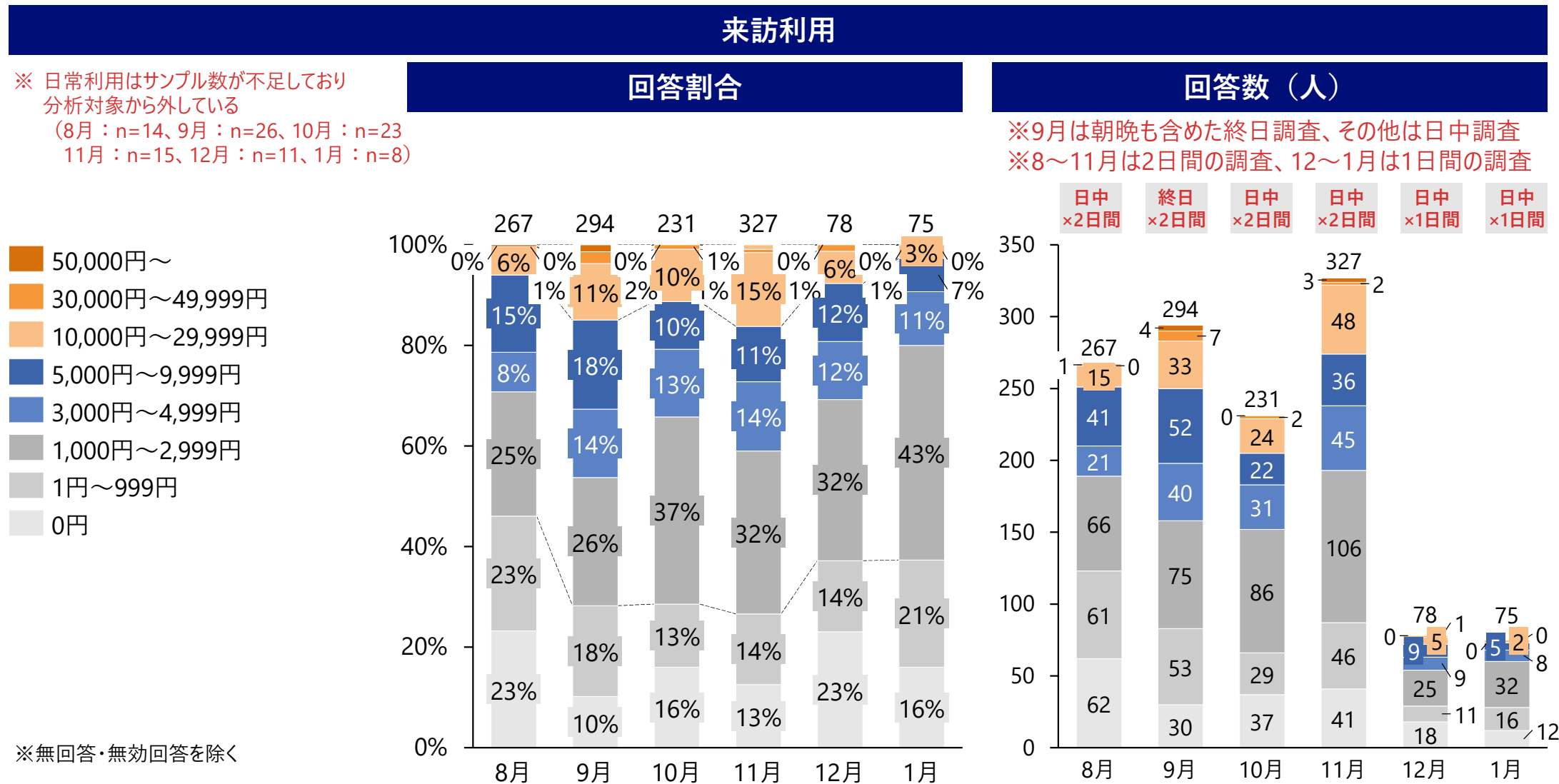
※6月は設問を削除



(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

来訪利用者の沿線2市における消費単価は、3,000円未満の人が過半数を占めた。
一方、10,000円以上消費した人は約1～2割となった（1/2）

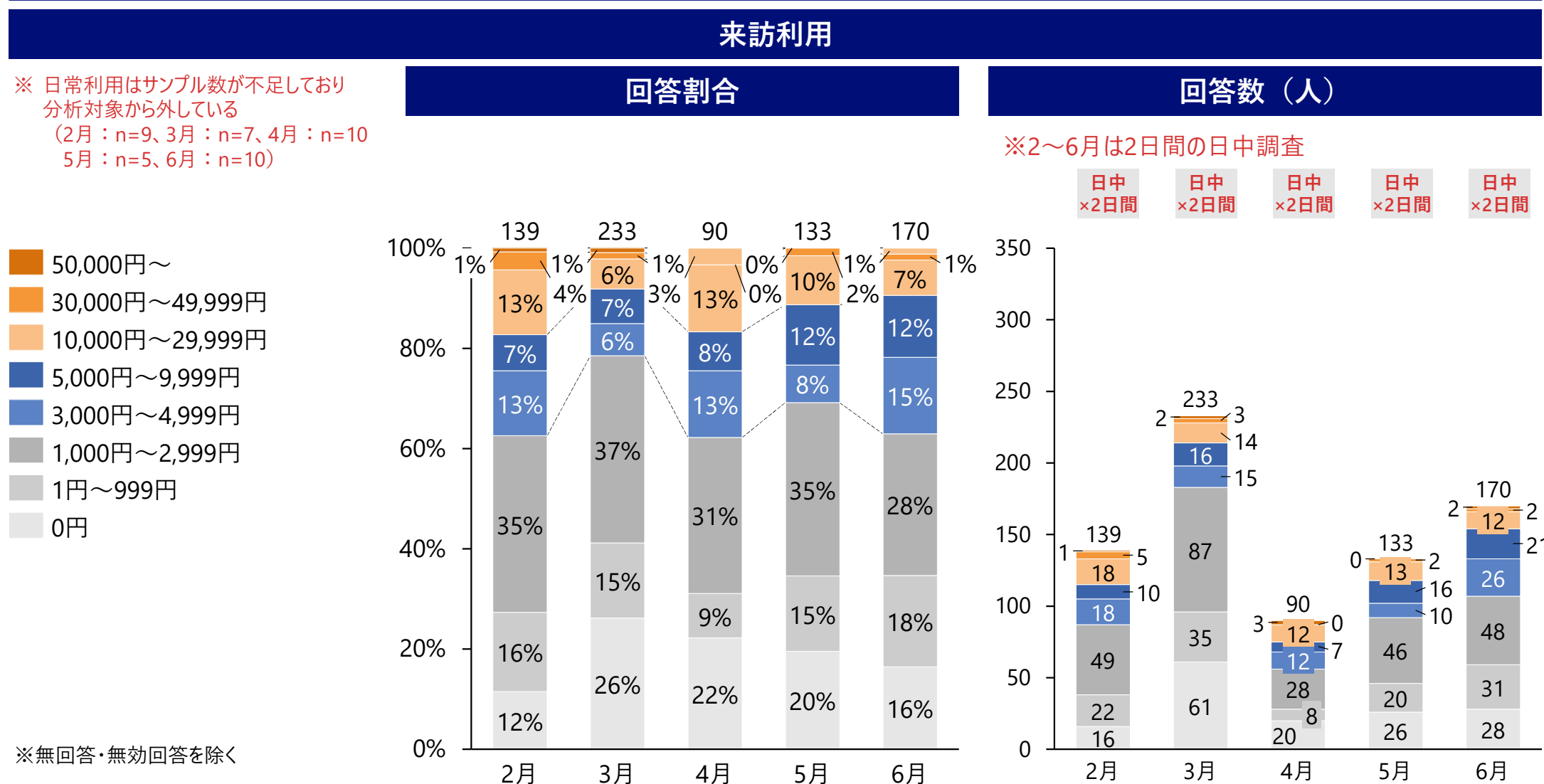
Q. 今回の外出において、庄原市・新見市エリアで使う金額を教えてください。（単一回答）



(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

来訪利用者の沿線2市における消費単価は、3,000円未満の人が過半数を占めた。
一方、10,000円以上消費した人は約1～2割となった（2/2）

Q. 今回の外出において、庄原市・新見市エリアで使う金額を教えてください。（単一回答）



(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

【参考】来訪者のうち、県内で10,000円以上を消費した人は全体の約2～3割を占めた

Q. 今回の外出において、庄原市・新見市以外の広島県・岡山県エリアで使う金額を教えてください。（単一回答）

来訪利用

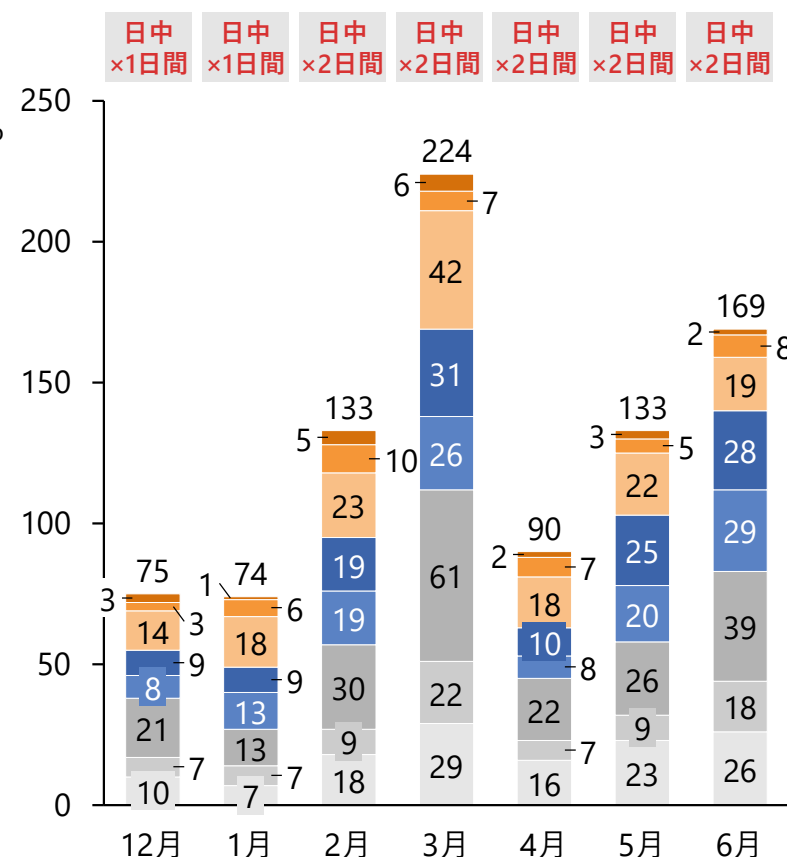
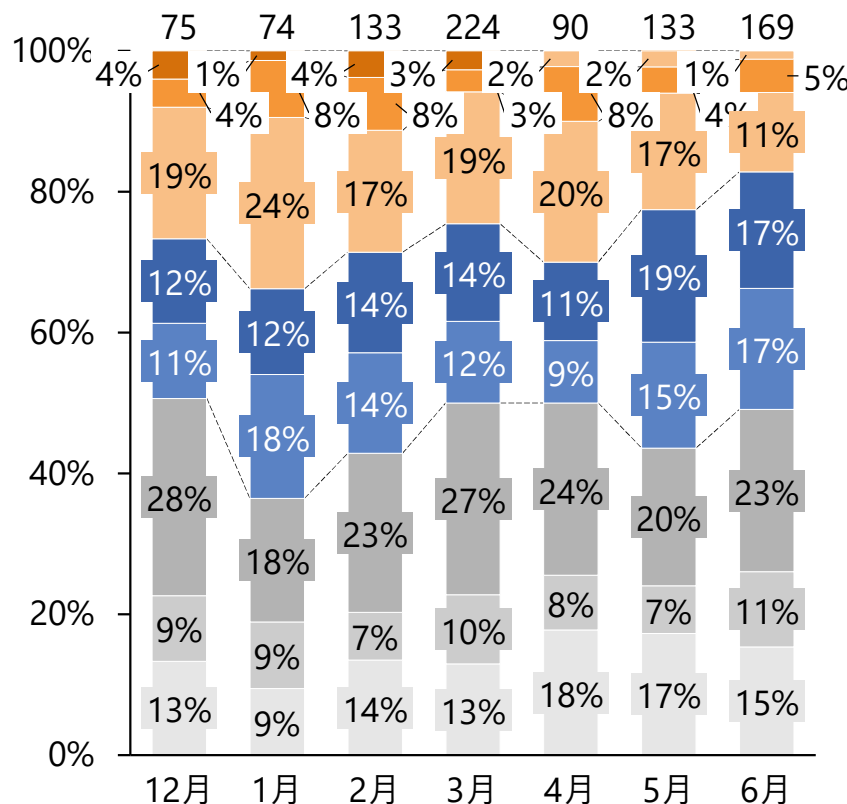
回答割合

回答数（人）

※ 日常利用はサンプル数が不足しており
分析対象から外している

（12月：n=11、1月：n=8、2月：n=9、
3月：n=7、4月：n=10、5月：n=5、6月：n=10）

※12～1月は1日間の日中調査、2～6月は2日間の日中調査



※無回答・無効回答を除く

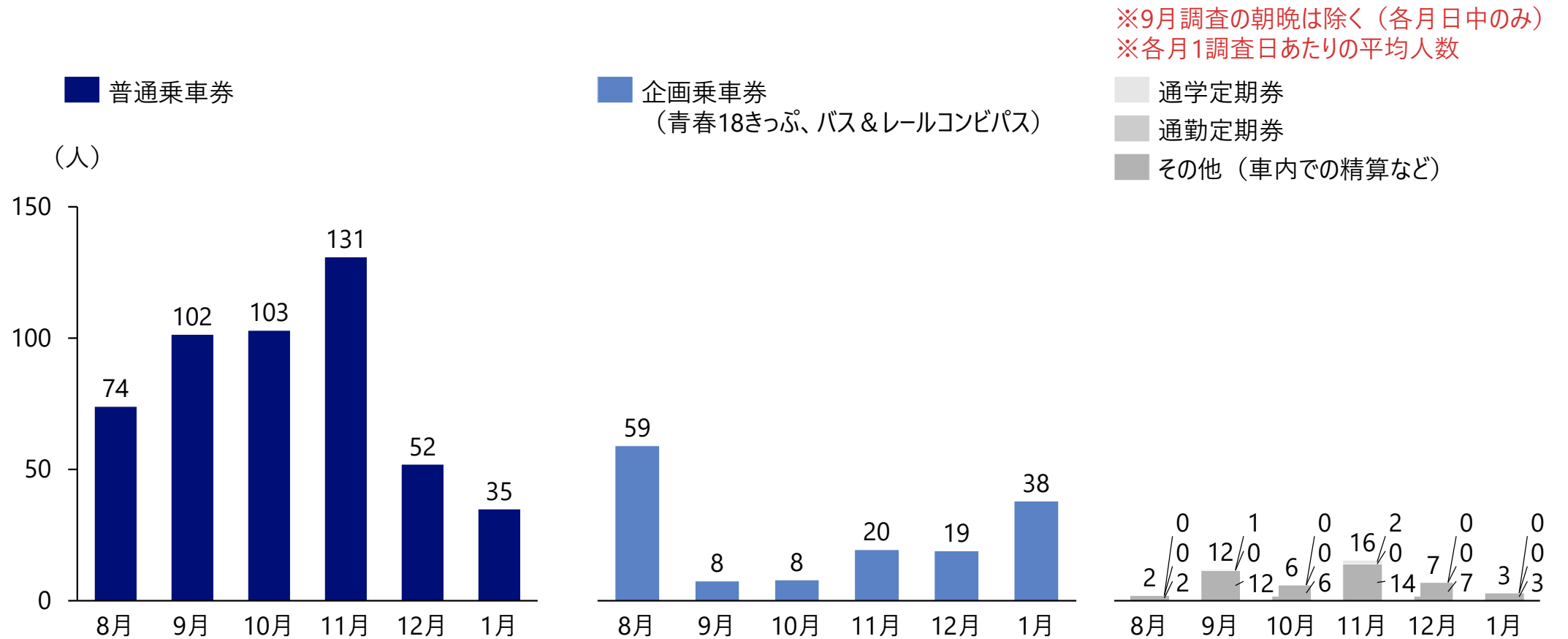
出所）列車アンケート調査

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車(休日日中) 調査の結果

全体を通して普通乗車券の利用が中心だったが、8月、1月、3月は企画乗車券の利用が増加した (1/2) ※調査日が少ないため、イベントの影響を大きく受けることに注意が必要

Q. 本日芸備線で使用したきっぷを教えてください。(単一回答) ※ 日常利用はサンプル数が不足しており分析対象から外している (8月：n=14、9月：n=8、10月：n=23、11月：n=15、12月：n=11、1月：n=8)

来訪利用 (8月：n=270、9月：n=242、10月：n=234、11月：n=332、12月：n=78、1月：n=76)



※無回答・無効回答を除く

出所) 列車アンケート調査

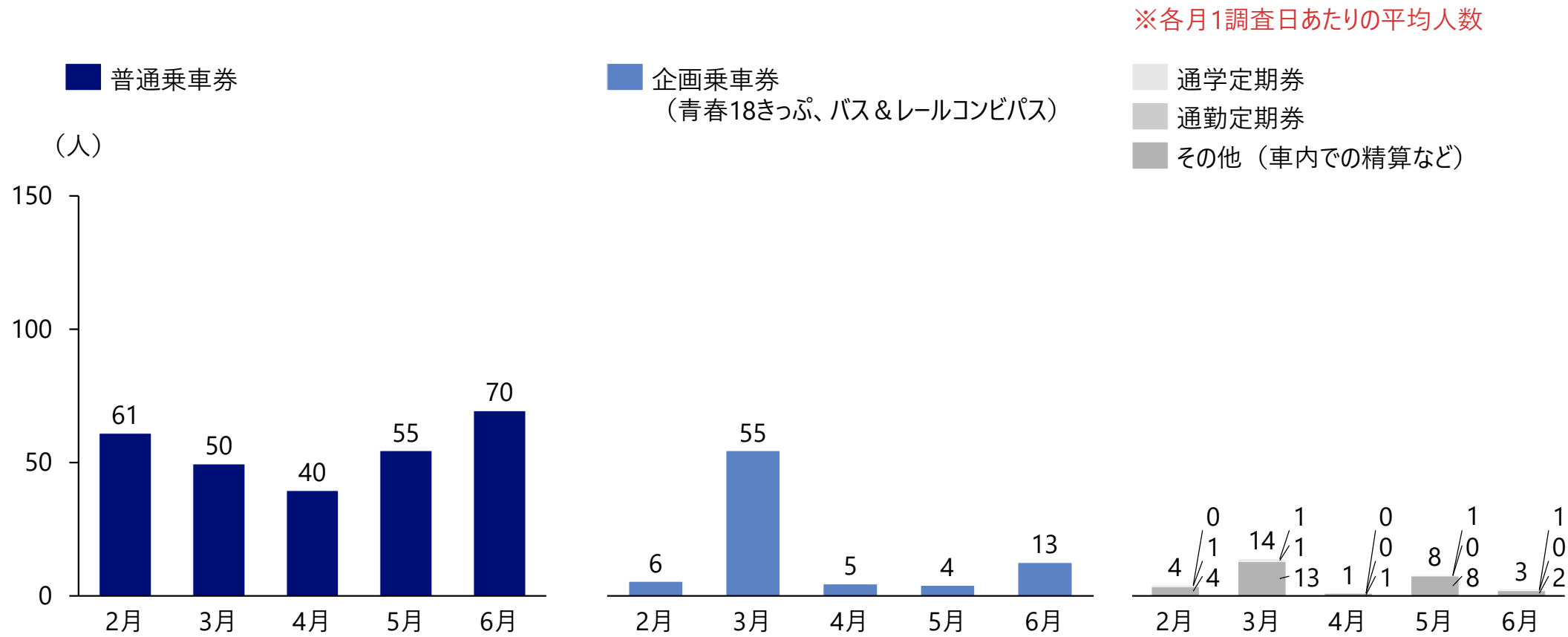
(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車 (休日日中) 調査の結果

全体を通して普通乗車券の利用が中心だったが、8月、1月、3月は企画乗車券の利用が増加した (2/2) ※調査日が少ないため、イベントの影響を大きく受けることに注意が必要

Q. 本日芸備線で使ったきっぷを教えてください。(単一回答)

※ 日常利用はサンプル数が不足しており分析対象から外している
(2月 : n=9、3月 : n=7、4月 : n=10、5月 : n=5、6月 : n=10)

来訪利用 (2月 : n=141、3月 : n=236、4月 : n=90、5月 : n=133、6月 : n=169)



※無回答・無効回答を除く

出所) 列車アンケート調査

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

当該列車が無ければ「他の地域に外出していた」、「外出を取りやめていた」人が約5～6割存在し、増便を含む芸備線の列車運行が来訪の促進に繋がっていた（1/2）

Q. もしこの列車が運休していたらどのように対応していましたか。（単一回答）

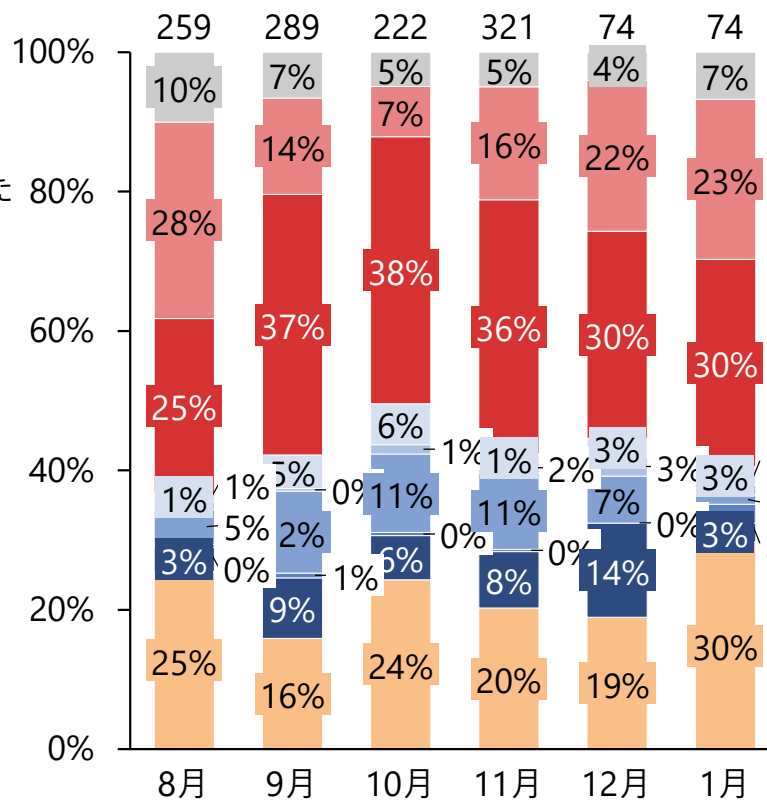
来訪利用

※ 日常利用はサンプル数が不足しており
分析対象から外している
(8月：n=14、9月：n=26、10月：n=23
11月：n=15、12月：n=11、1月：n=8)

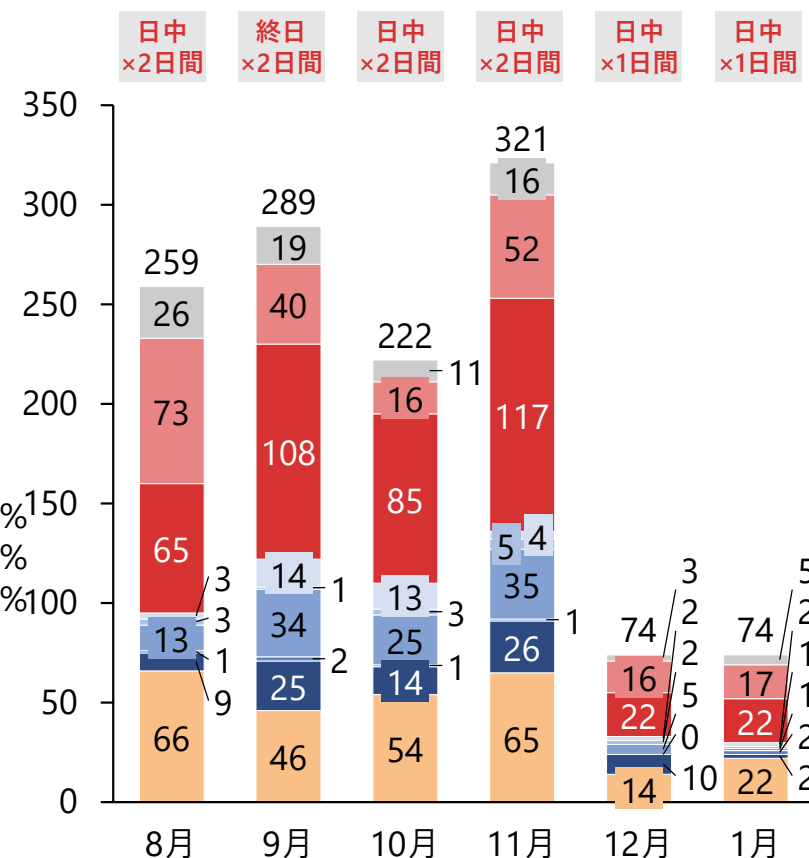
回答割合

回答数（人）

- その他
- 他の地域に外出していた
- 外出を取りやめていた
- 家族・知人に自家用車で送迎してもらった
- 自分でレンタカーを運転した
- 自分で自家用車を運転した
- 一般タクシーを利用した
- バス・乗合タクシーを利用した
- 芸備線の他の便を利用した



※9月は朝晩も含めた終日調査、その他は日中調査
※8～11月は2日間の調査、12～1月は1日間の調査



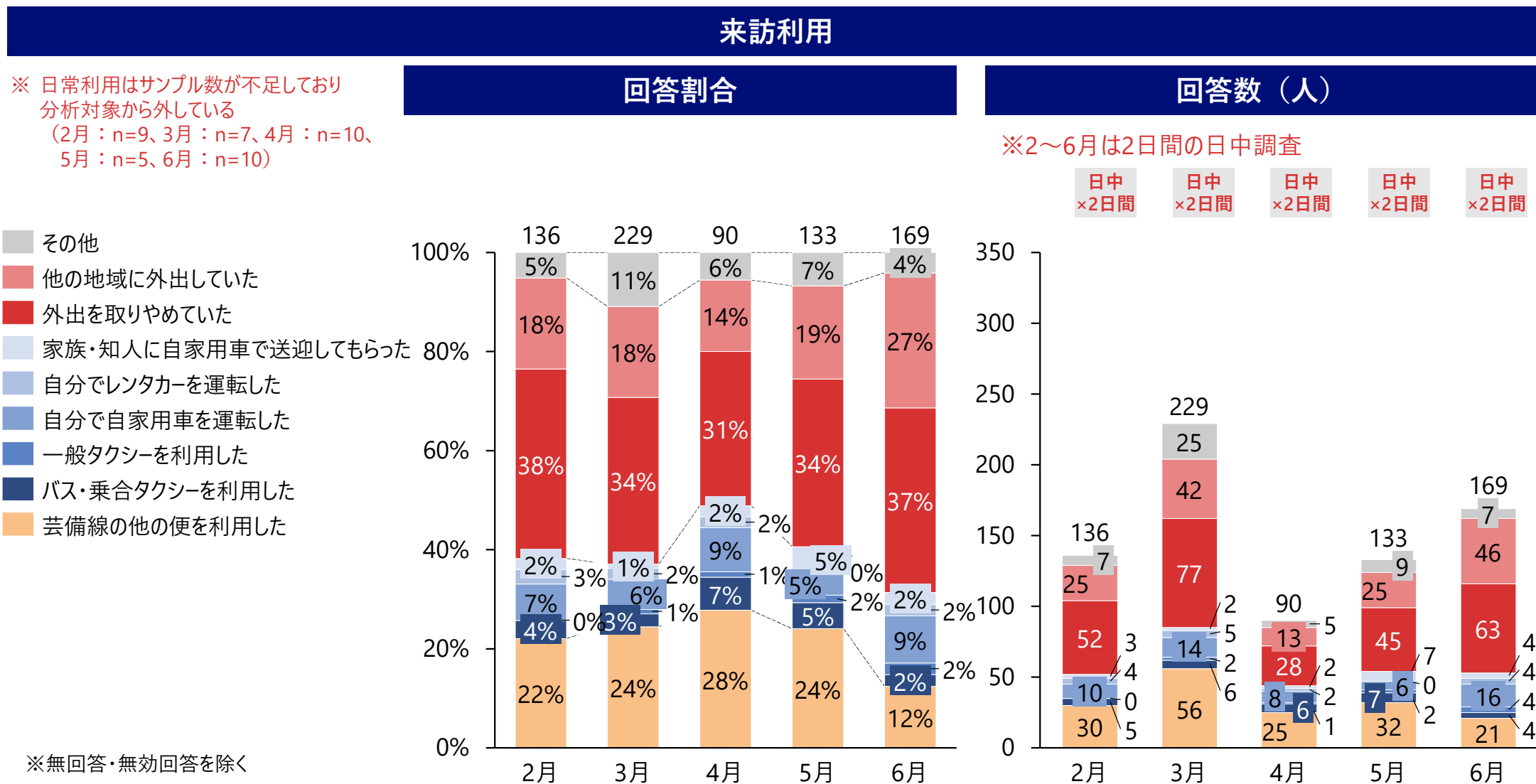
※無回答・無効回答を除く

出所) 列車アンケート調査

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

当該列車が無ければ「他の地域に外出していた」、「外出を取りやめていた」人が約5～6割存在し、増便を含む芸備線の列車運行が来訪の促進に繋がっていた（2/2）

Q. もしこの列車が運休していたらどのように対応していましたか。（単一回答）



※無回答・無効回答を除く

出所) 列車アンケート調査

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

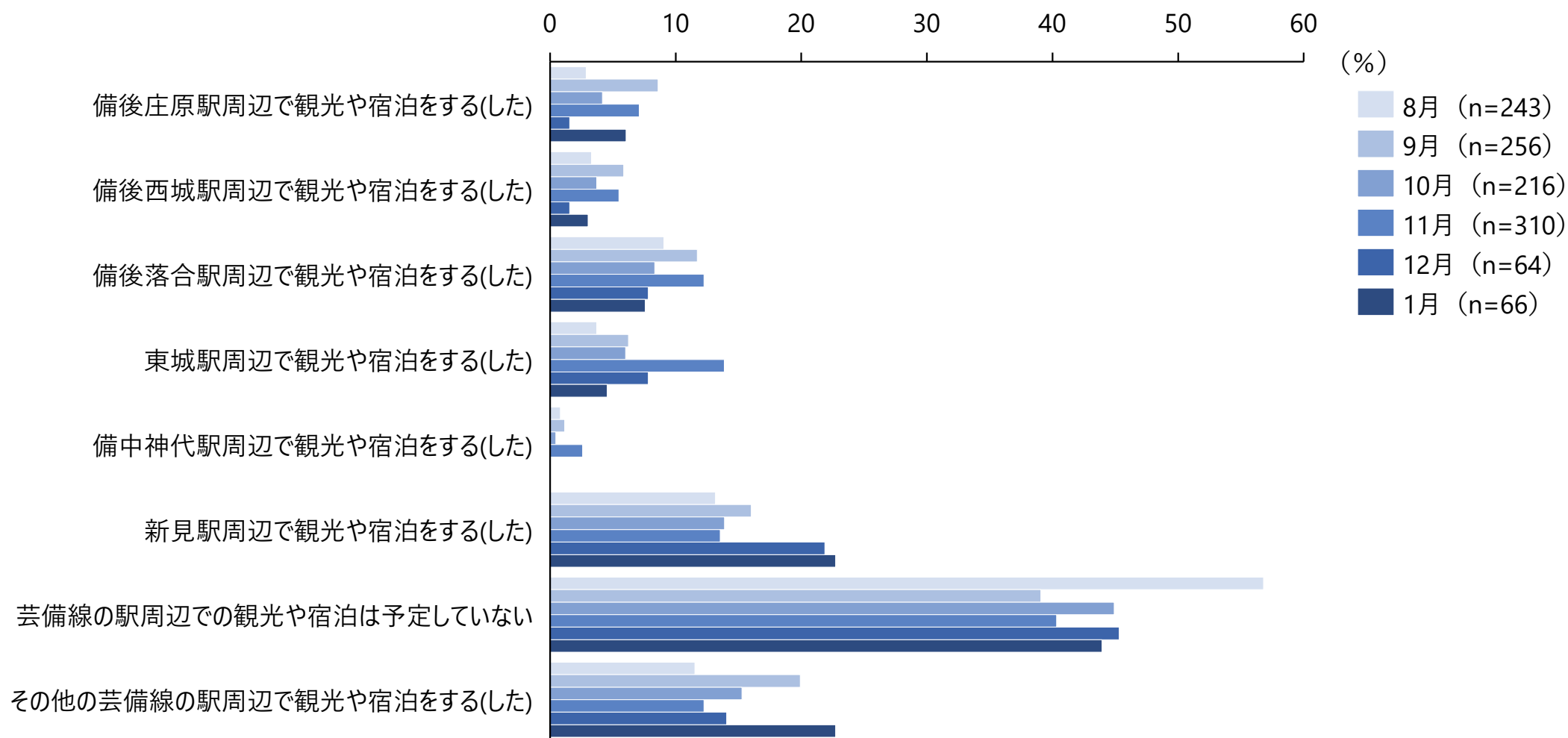
各種イベントが本格化した9月以降は、芸備線沿線で観光や宿泊をする人が増加したが、
いずれの月でも「通過者」が最多だった (1/2)

Q. 観光や芸備線への乗車が目的の方に伺います。

芸備線の駅で降りて、観光や宿泊は予定していますか。（複数回答）

※9月は朝晩も含めた終日調査、その他は日中調査

※8～11月は2日間の調査、12～1月は1日間の調査



(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 列車(休日日中)調査の結果

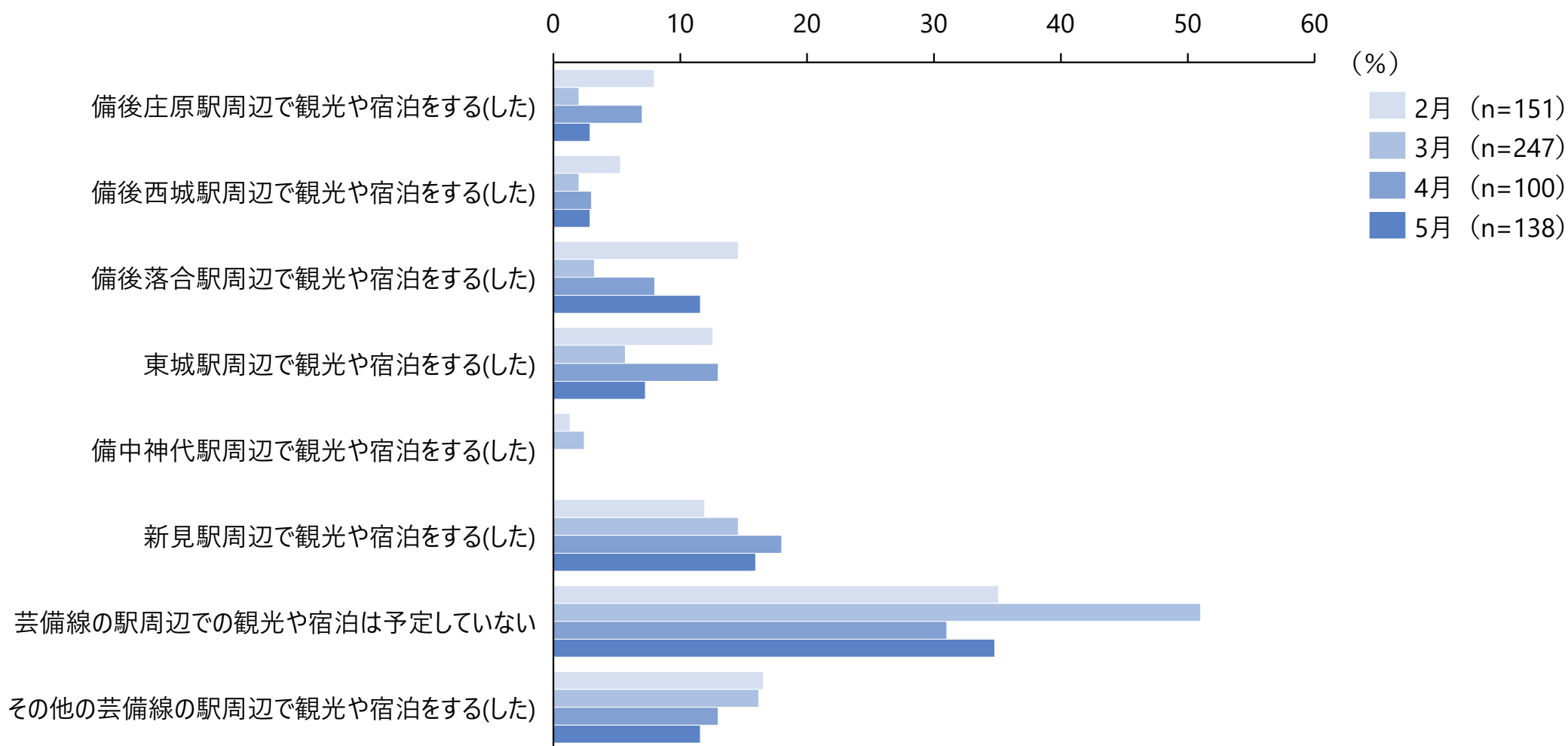
各種イベントが本格化した9月以降は、芸備線沿線で観光や宿泊をする人が増加したが、
いずれの月でも「通過者」が最多だった(2/2)

Q. 観光や芸備線への乗車が目的の方に伺います。

芸備線の駅で降りて、観光や宿泊は予定していますか。(複数回答)

※2～5月は2日間の日中調査

※6月は設問を削除



（１）①実証事業 A を補完するデータの収集 | 列車（休日日中）調査の結果

休日日中の増便列車は、一定の利用が見られ、新規来訪者の獲得に寄与したと考えられる。
一方で、年間を通じた安定的な需要の創出や、地域における観光消費の拡大は課題である

休日日中の増便に関する成果と課題

実証の成果

- 増便列車が無ければ「他の地域に外出していた」、「外出を取りやめていた」人が約5～6割存在し、増便を含む芸備線の列車運行が、来訪の促進に繋がったと考えられる
- 遠方（中国地方以外）からの来訪者が約4～5割を占め、増便を含む芸備線の列車運行が、遠方からの来訪促進に繋がったと考えられる
- 休日日中の増便列車は一定の利用が見られ、特に紅葉シーズンの11月は1便あたり約60人の利用が見られるなど、新規来訪者の獲得に寄与したと考えられる

実証の課題

- 休日日中の増便列車は、12月以降利用が減少しており、鉄道の大量輸送特性を活かすためには、年間を通じた安定的な需要の創出が課題となる
- 最多の乗車理由が「芸備線の乗車自体」であり、結果として沿線2市における消費単価は3,000円未満の人が過半数を占めるなど、新規来訪が地域における経済効果の発現に繋がりにくい状況が見られた。地域における消費単価の向上が求められるが、現状では特定区間沿線で宿泊やお土産購入等の観光消費を行う拠点が限られるため、受入環境整備が課題となる

実証事業A 二次交通調査結果

(1) ①実証事業 Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

各二次交通の運行期間は、以下の通り

各二次交通の運行期間

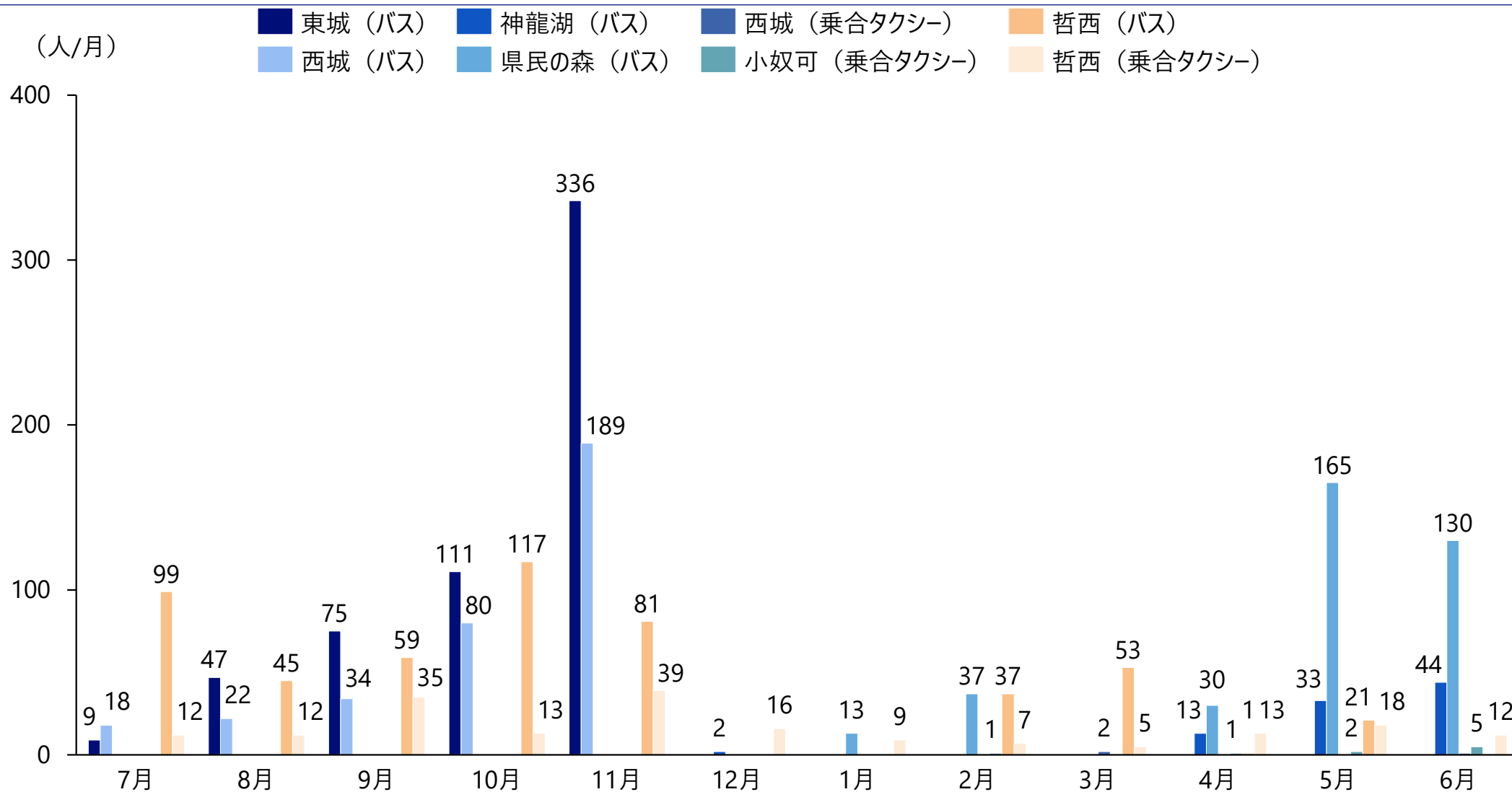
運行なし

地域	二次交通名	対象	運行期間											
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
庄原	西城地域来訪者向けシャトルバス	来訪者	7/19～11/24の土休日											
	東城地域来訪者向けシャトルバス	来訪者	7/19～11/24の土休日											
	帝釈峡神龍湖バス	来訪者						12月の土曜				4/1～6/28の土休日		
	県民の森バス	来訪者						1/10～2/28の土曜			4/1～6/28の土休日			
	西城地域住民向け乗合タクシー	住民					11/25～3/31の平日				4/1～6/28の全日			
	東城地域小奴可地区住民向け乗合タクシー	住民					11/25～3/31の平日				4/1～6/28の全日			
新見	哲西エリア来訪者向けシャトルバス	来訪者	7/19～11/24の土休日、11/25～3/31の土曜日									4/1～6/28の土休日		
	哲西エリア住民向け乗合タクシー	住民	7/19～11/24の土休日、11/25～3/31の土曜日									4/1～6/28の土休日		

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

観光客向けの二次交通は、一定の利用があり、特に11月の東城・西城地区のバスや、5-6月の県民の森周遊バスは利用が伸長した。一方、住民向けの二次交通は利用が少なかった

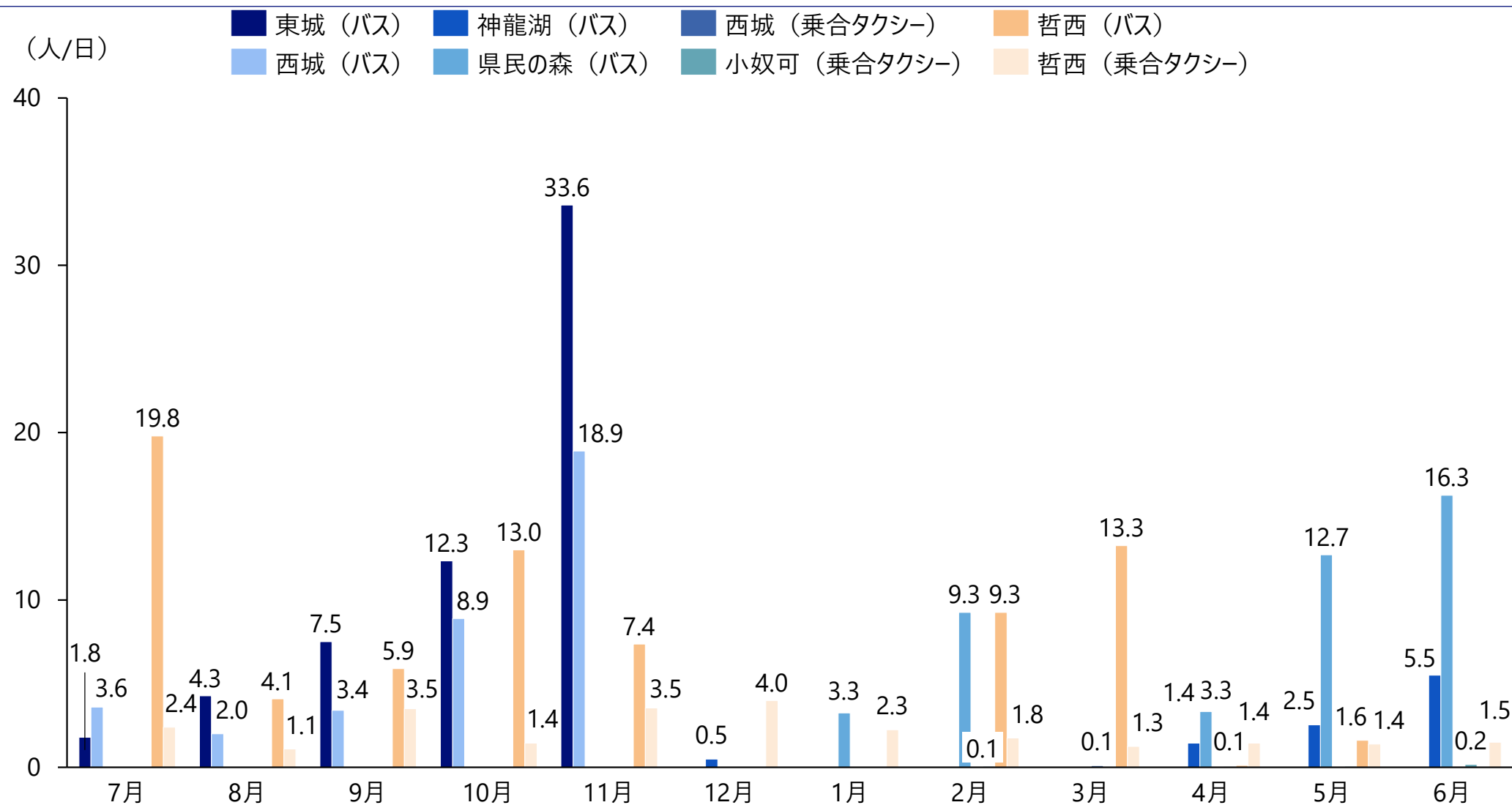
二次交通の月別の合計乗車人数推移



(1) ①実証事業 Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

1日当たり乗車人数は、7月の哲西地区のバス、11月の東城・西城地区のバス、6月の県民の森周遊バスで特に多かった。一方、住民向けはいずれの月も数人以下にとどまった

二次交通の1日当たりの乗車人数推移



【参考】各二次交通の月別乗車人数

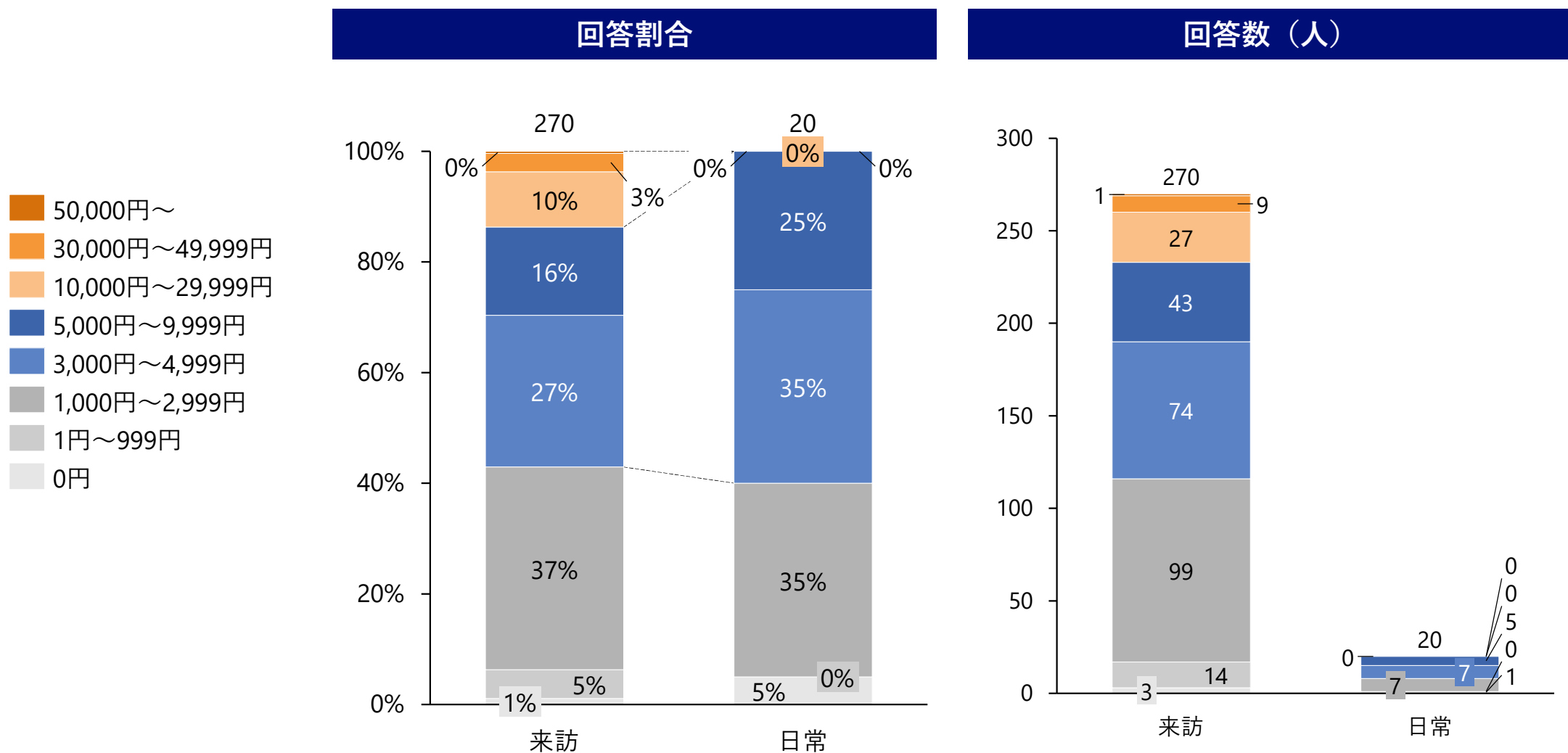
各二次交通の月別乗車人数（単位：人）

運行なし

地域	二次交通名	対象	運行期間											
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
庄原	東城地域来訪者向けシャトルバス	来訪者	9	47	75	111	336							
	西城地域来訪者向けシャトルバス	来訪者	18	22	34	80	189							
	帝釈峡神龍湖バス	来訪者						2				13	33	44
	県民の森バス	来訪者							13	37		30	165	130
	西城地域住民向け乗合タクシー	住民					0	0	0	0	2	0	0	1
	東城地域小奴可地区住民向け乗合タクシー	住民					0	0	0	1	0	1	2	5
新見	哲西エリア来訪者向けシャトルバス	来訪者	99	45	59	117	81	0	0	37	53	1	21	0
	哲西エリア住民向け乗合タクシー	住民	12	12	35	13	39	16	9	7	5	13	18	12

来訪利用者の消費単価は、3,000円未満が4割程度、10,000円以上が1割程度となった

Q3. 今回の外出において、庄原市・新見市エリアで使う金額を教えてください。（単一回答）

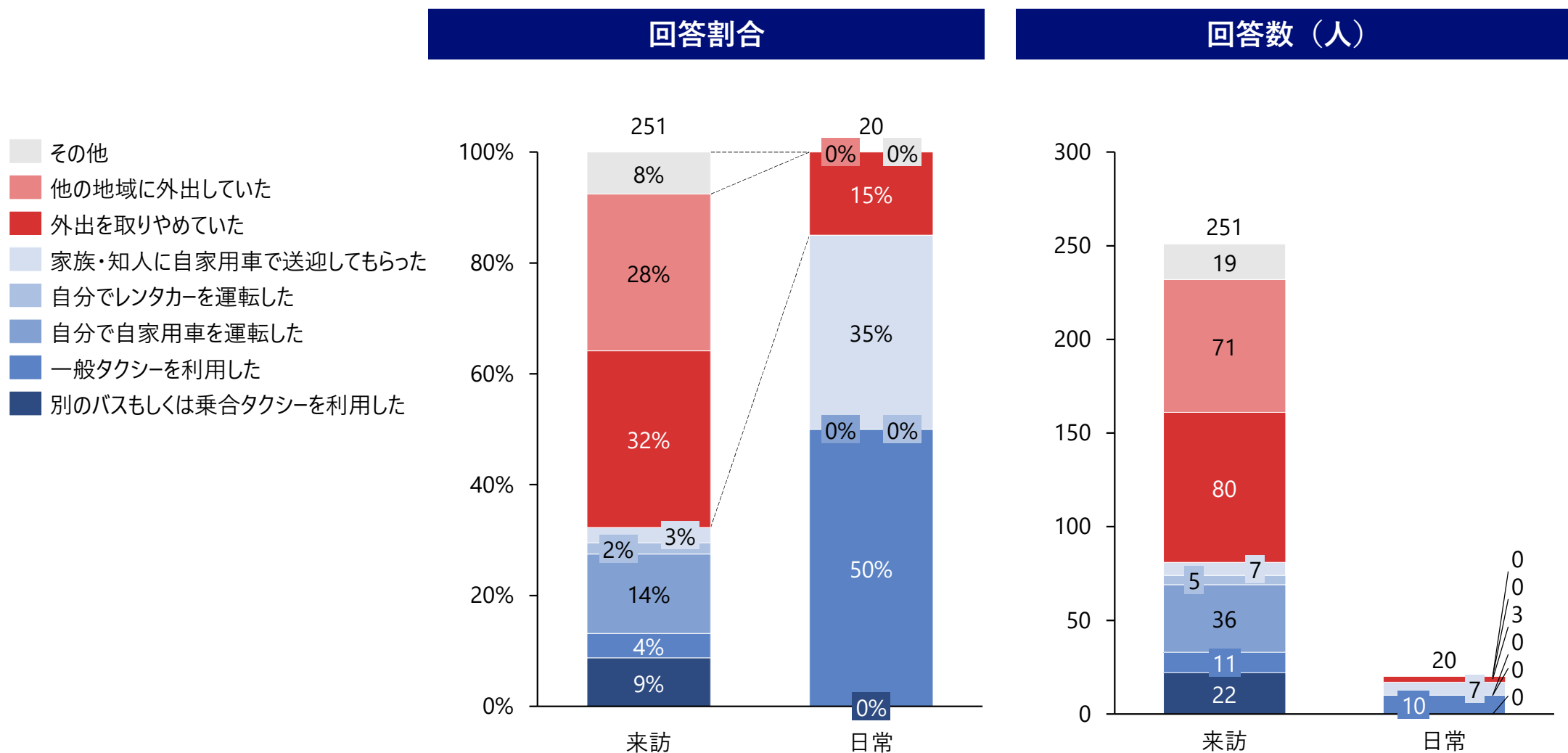


※無回答・無効回答を除く

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

来訪利用者は、6割程度が「二次交通が運休していた場合、庄原・新見に訪れなかった」と回答しており、二次交通の整備が新規誘客に寄与したと考えられる

Q4. もしこのバス（タクシー）が無かったらどのように対応していましたか。（単一回答）

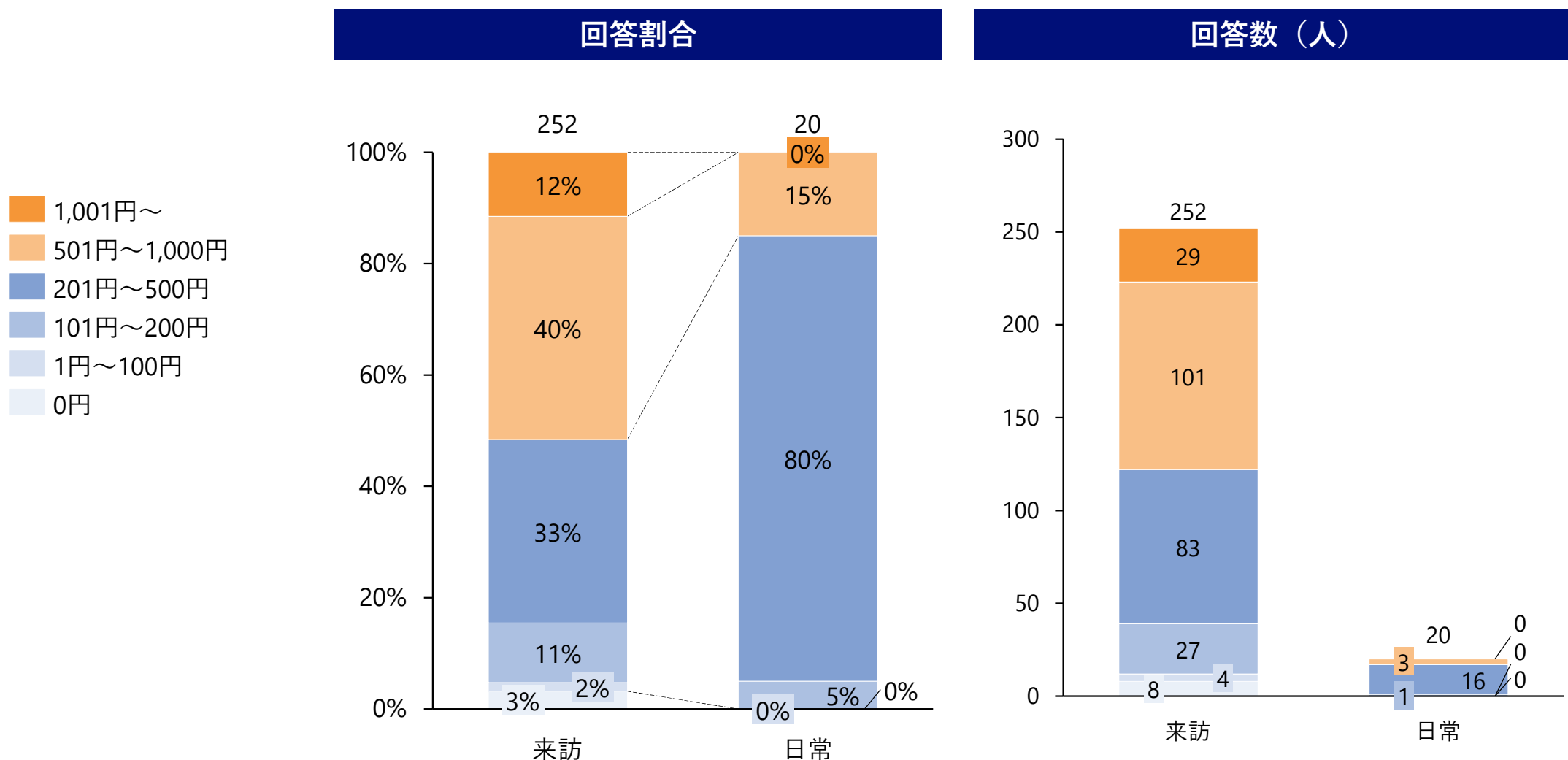


※無回答・無効回答を除く

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

来訪利用者は、約半数が500円以上の支払い意思を示した。
また、日常利用を含め、ほとんどの利用者が有償で良いと回答した

Q5. 運賃が何円までであればこのバス（タクシー）を利用しますか。（単一回答）

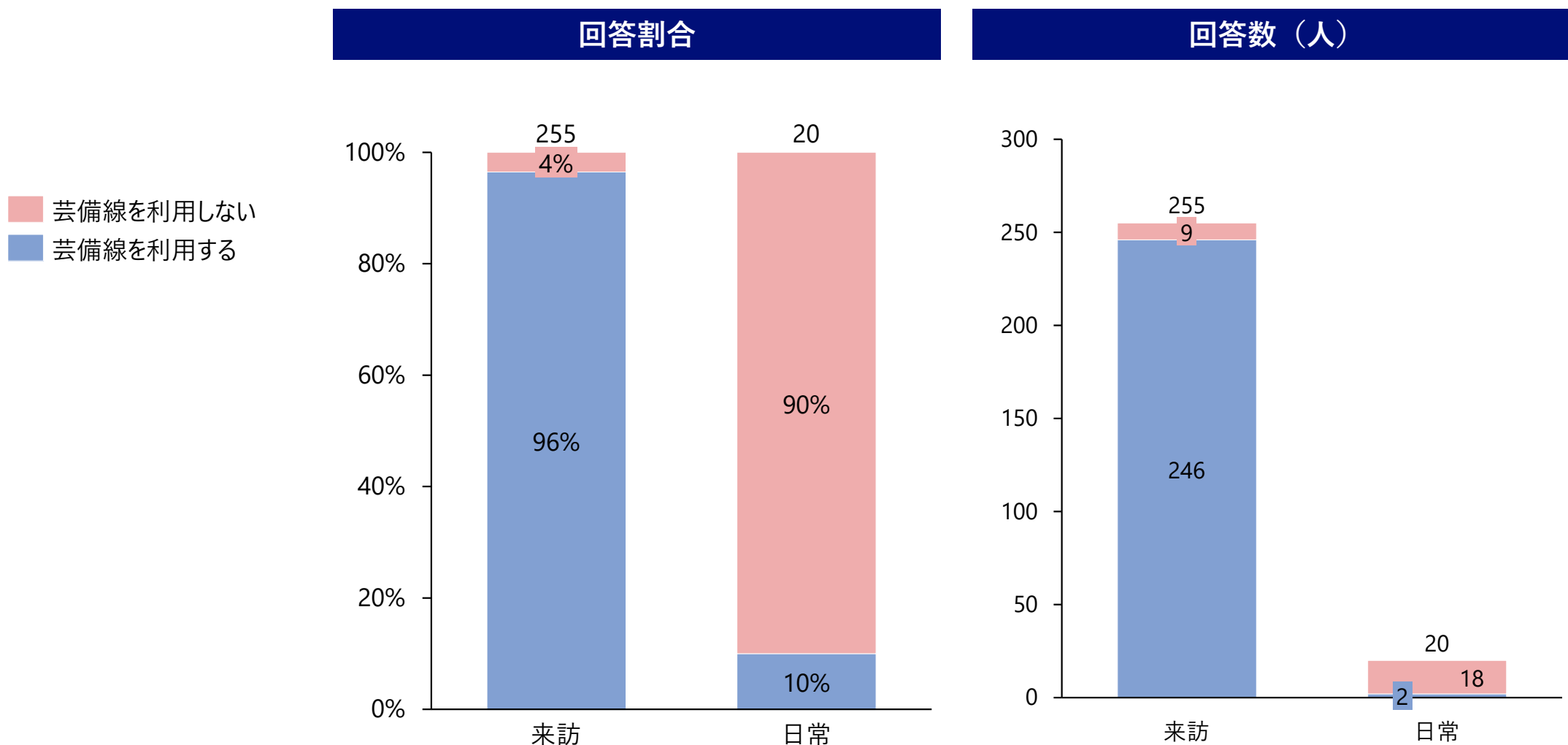


※無回答・無効回答を除く

(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

来訪利用者は、ほとんどが前後に芸備線を利用しており、芸備線と二次交通を乗り継いだ周遊が発生した。一方、日常利用者は二次交通のみを利用する人が多かった

Q6. このバス（タクシー）の前後に芸備線を利用しますか。（単一回答）

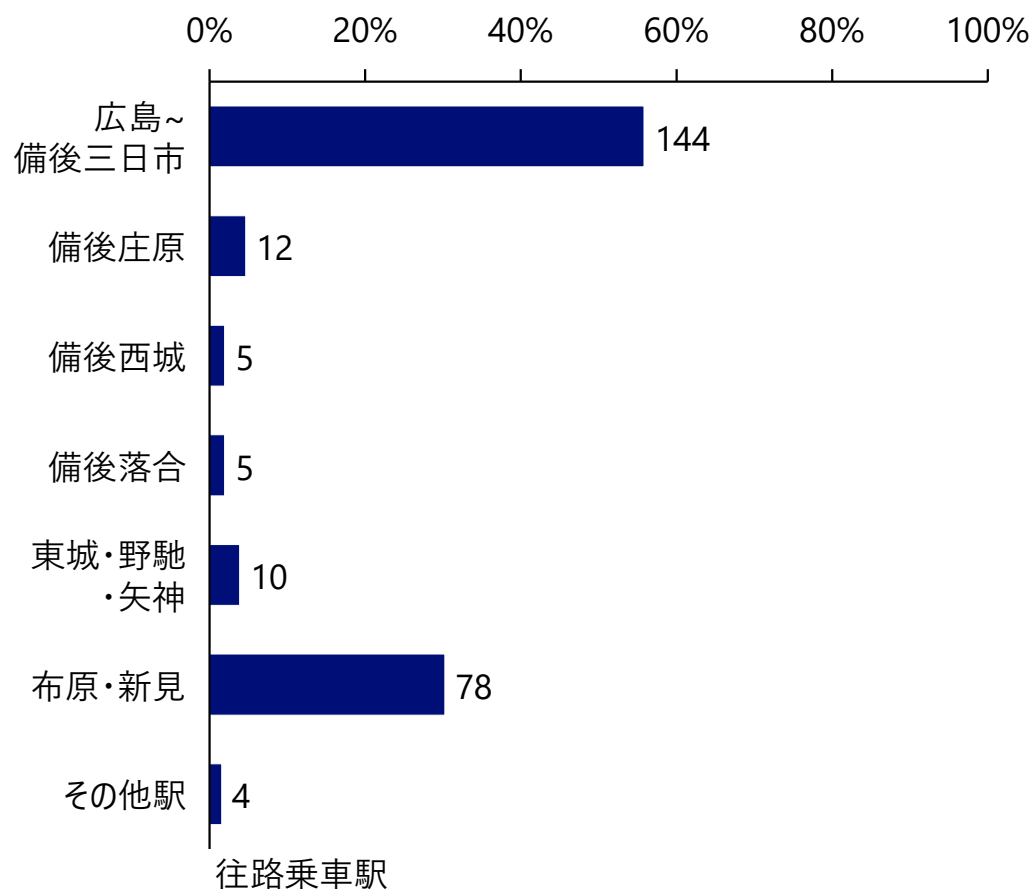


(1) ①実証事業Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

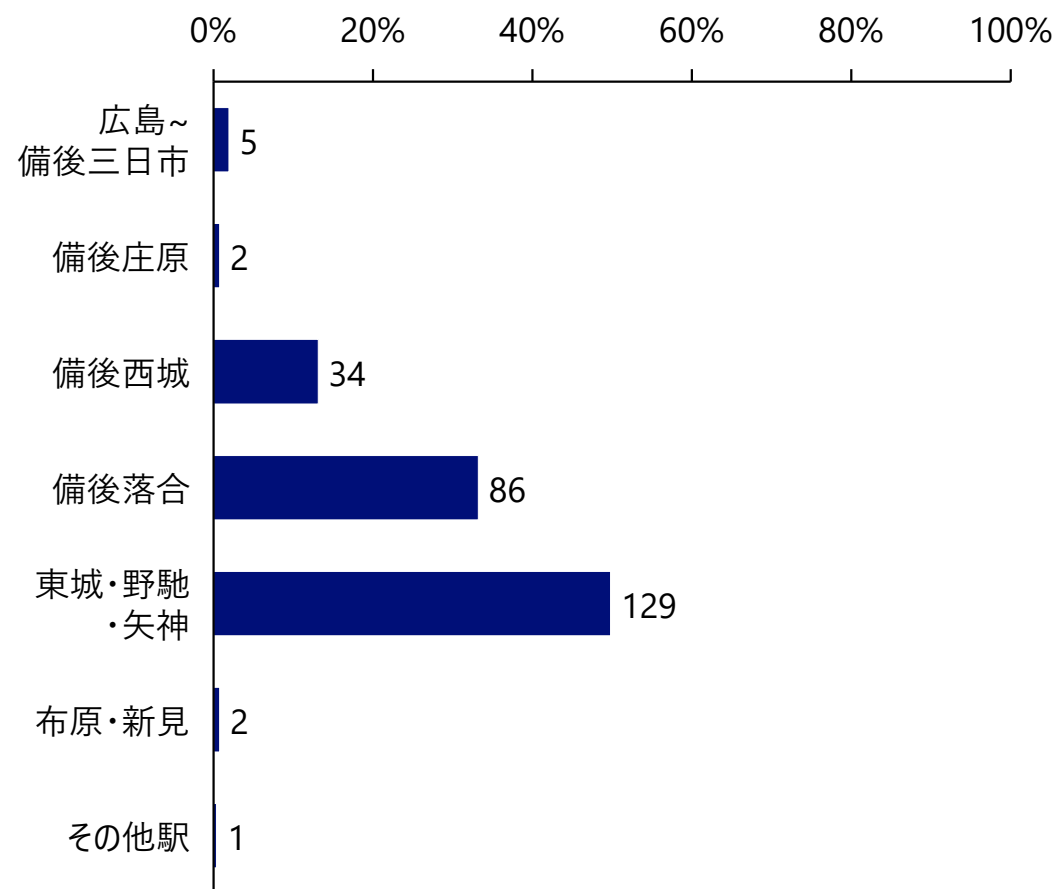
二次交通利用者は、特定区間外から芸備線に乗車し、
二次交通に乗り継いで観光地を訪問する流動が中心となっていた

Q7. 芸備線の乗車区間を教えてください。（単一回答）

往路の乗車駅（n=258）



往路の降車駅（n=259）



(1) ①実証事業 Aを補完するデータの収集 | 二次交通調査の結果

観光客向けの二次交通は、一定の利用があり、来訪の促進や地域における観光消費の拡大に寄与した。一方で、地元住民向けの二次交通は利用が伸び悩んだ

二次交通に関する成果と課題

実証の成果

- 観光客向けの二次交通は、一定の利用があり、特に11月の東城・西城地区のバスや、5-6月の県民の森周遊バスは利用が伸長した
- 来訪利用者は、6割程度が「二次交通が運休していた場合、庄原・新見に訪れなかった」と回答しており、二次交通の整備が新規誘客に寄与したと考えられる
- 列車（休日日中）調査の結果と比較すると、消費単価が3,000円未満の割合が少なく、地域における観光消費の拡大に寄与したと考えられる

実証の課題

- 地元住民向けの二次交通は、利用が伸び悩み、1日あたり数人以下の利用にとどまった。本数や運行時間帯の制約もある中で、駅からの二次交通の整備や芸備線のダイヤ変更だけでは、日常利用のニーズに十分応えきれていないことが示唆された
- 観光客向けの二次交通は、時期やルートによって利用者数の変動が大きく、芸備線の増便実証と同様に、年間を通じた安定的な需要の創出が課題となる

■ 調査事業の実施内容

（１）実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集

- ①実証事業 A を補完するデータの収集

②実証事業Bを補完するデータの収集

■ （２）地域経済効果の比較検討等による総合的な分析

(1) ②実証事業Bを補完するデータの収集 | 列車調査の実施

6月以降の列車調査では、実証A相当と実証B相当の比較検討に向け、芸備線が全線運休となった場合や、代替バスによる運行となった場合の対応方法等について聴取を行っている

- 列車内で回答する負荷を踏まえて、A4で片面2ページ以内、番号選択式としている。

調査項目

#	質問文	補足
1	ご自宅のエリアを教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
2	本日の外出の目的を教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
3	芸備線の乗車区間を教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
4	今回の一連の外出において、庄原市・新見市エリアや広島県・岡山県エリアで使う金額を教えてください。	・ 紙面スペース上、質問文を統合。
5	本日芸備線で使用したきっぷを教えてください。	・ 昨年度アンケートと同様。
6	もしこの列車が運休し、代替バスも無かったら、どうしていましたか。	・ 昨年度アンケートと同様。設問文の表現のみ変更。
7	問6で『芸備線の他の便を利用した』と回答した人のみお答えください。 もし芸備線の他の便も運休だとしたら、どうしていましたか。	・ 設問を追加。選択肢は「通常の路線バス・乗合タクシー／一般タクシー／自家用車／レンタカー／送迎／外出取りやめ／県内の他地域へ外出／県外の他地域へ外出／その他」とする。
8	もし芸備線が代替バスで運行されていたとしたら、どうしていましたか。	・ 設問を追加。選択肢は「代替バスを利用した／前の設問で回答した方法で対応した」とする。
9	庄原市・新見市にお住まいの方のみお答えください。 あなたが現在の地区にお住まいの理由を教えてください。	・ 設問を追加。選択肢は過去の住民アンケートと同様。
10	問9で『鉄道路線があるから』と回答した人のみお答えください。 もし芸備線（備後庄原～備中神代）がバスで運行されていたら転居するきっかけとなりますか。	・ 設問を追加。選択肢は「数年以内に転居／当面は転居しない／転居しない／分からない」とする。

(1) ②実証事業Bを補完するデータの収集 | バス調査の実施

バス調査では、芸備線と比較した際のバスの満足度や、 バスが運行していなかった場合の対応方法について聴取している

- バス車内で回答する負荷を踏まえて、A4で片面2ページ以内、番号選択式としている。

調査項目

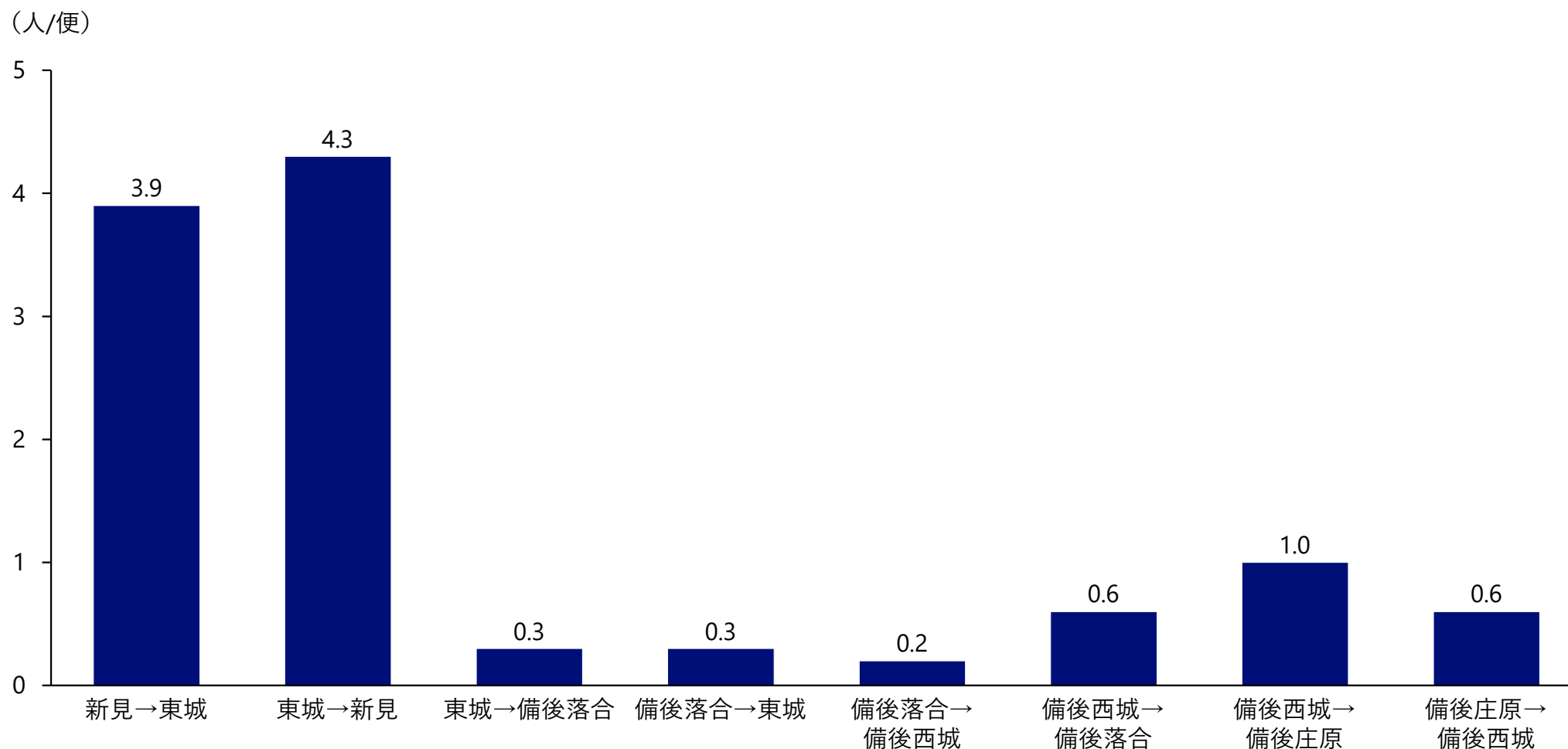
#	質問文	補足
1	ご自宅のエリアを教えてください。	・ 列車アンケートと同様。
2	本日の外出の目的を教えてください。	・ 列車アンケートの問2の選択肢に「実証バスへの乗車」を追加。
3	今回の一連の外出において、庄原市・新見市エリアや広島県・岡山県 エリアで使う金額を教えてください。	・ 列車アンケートと同様。
4	あなたは芸備線に乗車したことがありますか。	・ 乗車したことがある人は問5、ない人は問6へ分岐する。
5	問4で『乗車したことがある』と回答した人のみお答えください。 芸備線と比較して、このバスはいかがですか。	・ 総移動時間、乗り換えの待ち時間、乗り換え回数、乗降位置、運行時刻、運行本数、乗り心地について5段階で評価を確認する。
6	もしこのバスが運行していなかったとしたらどのように対応していましたか。	・ 選択肢は「芸備線／路線バス・乗合タクシー／一般タクシー／自家用車／レンタカー／送迎／外出取りやめ／県内の他地域へ外出／県外の他地域へ外出／その他」とする。
7	問6で『芸備線に乗車した』と回答した人のみお答えください。もしこのバスも 芸備線も存在しなかったとしたらどのように対応していましたか。	・ 選択肢は「路線バス・乗合タクシー／一般タクシー／自家用車／レンタカー／送迎／外出取りやめ／県内の他地域へ外出／県外の他地域へ外出／その他」とする。

(1) ②実証事業Bを補完するデータの収集 | バス調査の結果

実証Bバス（平日）では、全便を対象に利用者数を調査している。

6月の調査では新見-東城間が最も多く利用され、1便あたりの乗車人数は約4人であった

1便あたりの平均乗車人数（6月調査）



(1) ②実証事業Bを補完するデータの収集 | バス調査（高校生モニター向け）の実施

高校生モニターに対しては、別途専用のアンケートで、これまでの乗車回数や実証バスへの意見・感想などを聴取している

- 芸備線を通学で利用している高校生にweb上でご回答いただく。

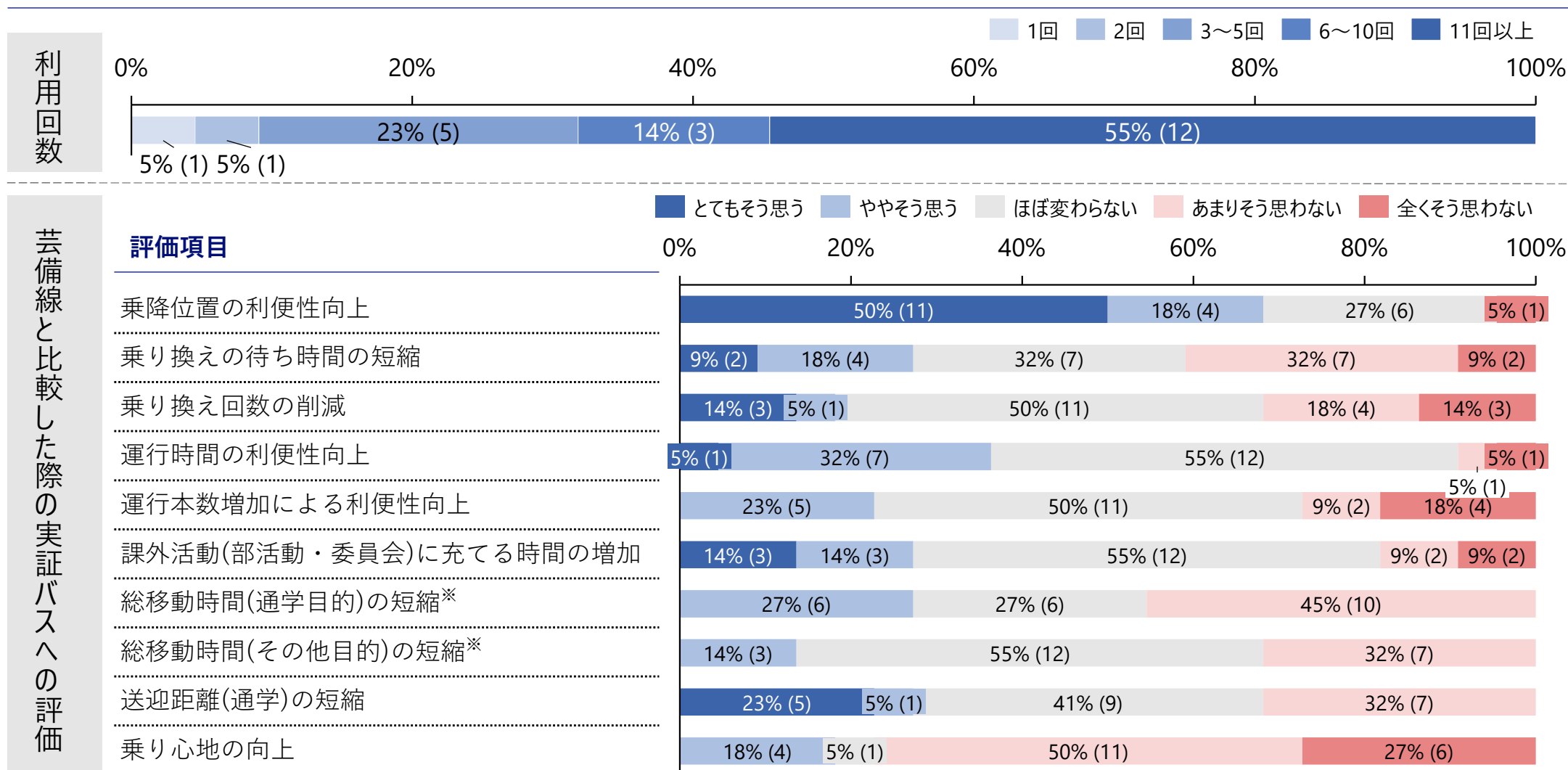
調査項目

#	質問文	補足
1	ご自宅のエリアを教えてください。	・ 選択肢は「庄原市／新見市／その他」とする。
2	あなたはこれまでに何回実証バスを利用しましたか。片道あたりを1回としてご回答ください。	・ 選択肢は「1回／2回／3～5回／6～10回／10回以上」とする。
3	あなたはこれまでにどのような目的で実証バスを利用しましたか。	・ 選択肢は「通学（行き）／通学（帰り）／通院／買い物／趣味・娯楽／習い事／その他」とする。
4	実証バスを利用する外出において、庄原市・新見市エリアや広島県・岡山県エリアで使う金額を教えてください。	・ 高校生向けアンケートは都度回答でないため、平均金額を回答する形式とする。
5	芸備線と比較して、実証バスはいかがですか。	・ 通常のバスアンケートの項目に加え、送迎距離と、部活動や委員会に利用できる時間について5段階で評価を確認する。
6	今回の実証バスについて、ご意見やご感想を自由にお書きください。	・ 便利な点、不便な点の双方を確認する。
7	もしこのバスが運行していなかったとしたらどのように対応していましたか。	・ 選択肢は「芸備線／路線バス・乗合タクシー／一般タクシー／送迎／外出取りやめ／県内の他地域へ外出／県外の他地域へ外出／その他」とする。
8	問7で『芸備線に乗車した』と回答した人のみお答えください。もし実証バスも芸備線も存在しなかったとしたらどのように対応していましたか。	・ 選択肢は「路線バス・乗合タクシー／一般タクシー／送迎／外出取りやめ／県内の他地域へ外出／県外の他地域へ外出／その他」とする。

(1) ②実証事業Bを補完するデータの収集 | バス調査（高校生モニター向け）の結果

高校生モニターアンケートでは、乗降位置の利便性向上について肯定的な意見が多く見られた。一方、通学時間や乗り心地に関しては評価が分かれ、今後の改善が期待される結果となった

高校生モニターアンケートの結果（単一回答／n=22）



※総移動時間に関する設問の選択肢は、横棒グラフ左から順に「30分以上減少した」、「1～30分減少した」、「ほぼ変わらない」、「1～30分増加した」、「30分以上増加した」の5択

■ 調査事業の実施内容

■ (1) 実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集

(2) 地域経済効果の比較検討等による総合的な分析

- ①地域経済効果の比較検討
- ②最適な交通モードの判断に当たっての論点整理

■ 調査事業の実施内容

■ （１）実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集

（２）地域経済効果の比較検討等による総合的な分析

①地域経済効果の比較検討

- ②最適な交通モードの判断に当たっての論点整理

実証事業Aの効果検証結果（個別施策）

(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

第7回協議会では以下の施策に関して、費用及び効果を示す

第7回協議会で示す施策一覧

施策分類	施策名	集計対象の考え方				第6回協議会からの変更点
		費用		効果		
		全費用	既存事業 支援費用	芸備線 利用者分	芸備線 非利用者分	
1. 鉄道サービスの拡充・ 二次交通連携	休日日中の増便	●		●		直近の実証結果を反映
	二次交通との連携強化	●		●	●	
2. 列車による 観光コンテンツの形成等 ④観光ツアー	雪山感謝祭	●		●		通年換算の考え方を変更
	秘境駅をめぐる旅	●		●		
	地酒を愉しむ旅（三次・庄原）	●		●		
	地酒を愉しむ旅（新見）	●		●		
	二連原桜並木・蓮照寺シダレザクラの春を味わう旅（広島）	●		●		
	東城三本桜と春を味わう旅（新見）	●		●		新規イベント
	初夏の庄原を味わい尽くすおいしい地元食材ツアー（広島）	●		●		
	新見ワインと食に浸る優雅ツアー（新見）	●		●		
	今こそ景勝地！ 帝釈峡ガイドツアー（広島）	●		●		
	自然体感・新見の魅力体感ツアー（新見）	●		●		
	東城まちあるき＆つまみ食い利き酒ほろ酔いツアー（新見）	●		●		
	東城まちあるき＆つまみ食い利き酒ほろ酔いツアー（三次）	●		●		
2. 列車による 観光コンテンツの形成等 ⑤企画乗車券等の設定	企画乗車券販売支援等		●	●		直近の実証結果を反映
6. 既存事業の強化・支援	ましかどの近代建築写真展（東城、西城）		●	●		新規イベント
	ヒバゴンと乗る芸備線		●	●		
	駅舎コンサートと東城レトロ		●	●		
	駅近利き酒		●	●		
	第3回哲西の太鼓田植よいとこまつり		●	●		
※地域の関連事業	庄原 3 つの桜めぐりと桜花の郷ラ・フォーレ庄原	●		●		新規イベント

※「芸備線TOJOYOプロジェクト」、「庄原駅前フェスタ」については、令和7年度および令和8年度の開催を支援したが、令和7年度分のみ効果を計上しているため、上記には含まれない

※「庄原 3 つの桜めぐりと桜花の郷ラ・フォーレ庄原」は、地域の関連事業として全体の効果検証結果に含む

(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業A相当の施策を恒久化した場合の費用と効果

交通関連サービスは通年で実施、ツアーは年に1回の実施を想定して、
実証事業Aの費用・定量的価値を通年換算した

第7回協議会で示す施策一覧

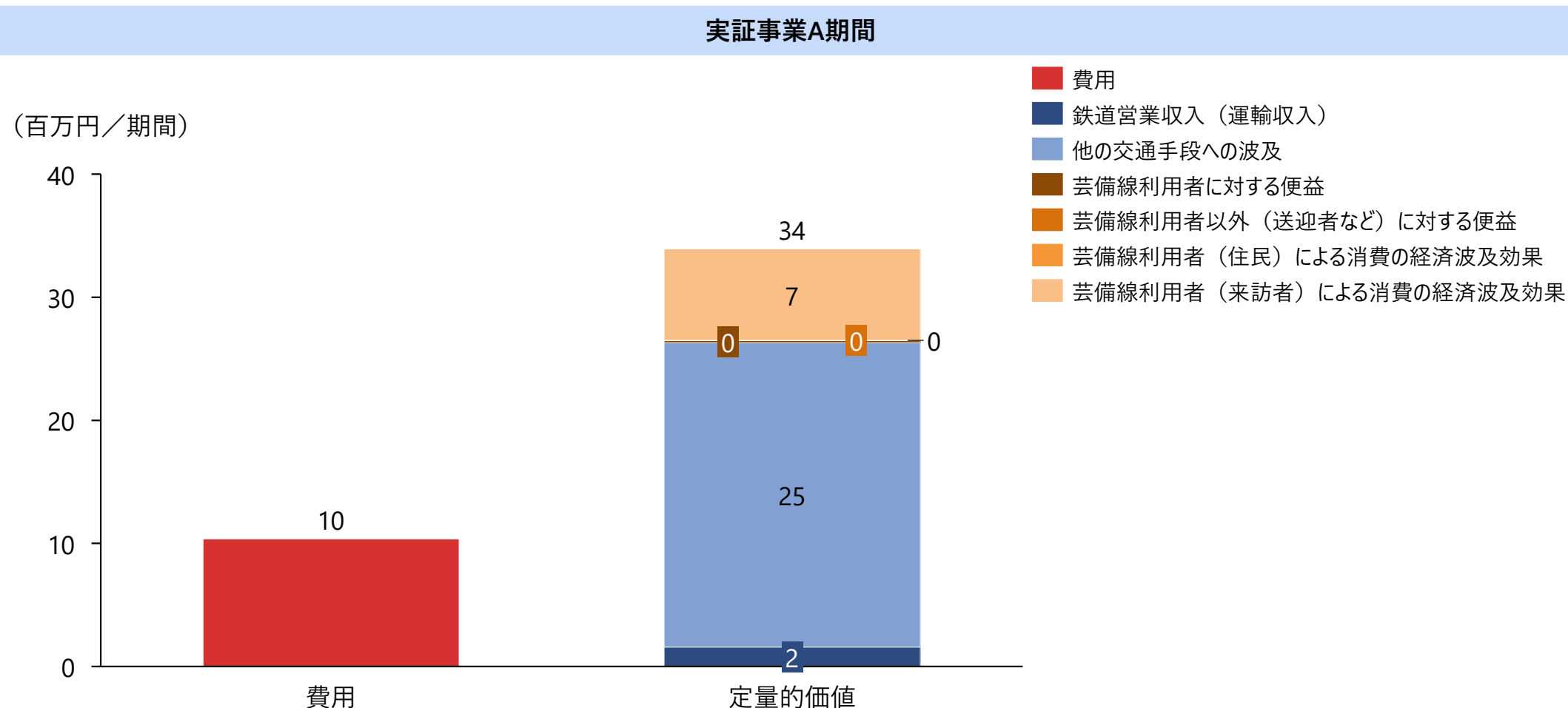
		通年実施想定	季節ごとに実施想定	年1回実施想定
施策分類	イベント概要	通年換算の考え方		
1. 鉄道サービスの拡充・二次交通連携	休日日中の増便	年間120日（土休日）の実施とし、費用・効果を日数で拡大		
	二次交通との連携強化	実証事業Aにて通年で実施済み		
2. 列車による観光コンテンツの形成等 ④観光ツアー	雪山感謝祭	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上*		
	秘境駅をめぐる旅	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上*		
	地酒を愉しむ旅（三次・庄原）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上*		
	地酒を愉しむ旅（新見）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上*		
	二連原桜並木・蓮照寺シダレザクラの春を味わう旅（広島）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	東城三本桜と春を味わう旅（新見）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	初夏の庄原を味わい尽くす おいしい地元食材ツアー（広島）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	新見ワインと食に浸る優雅ツアー（新見）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	今こそ景勝地！帝釈峡ガイドツアー（広島）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	自然体感・新見の魅力体感ツアー（新見）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	東城まちあるき & つまみ食い利き酒ほろ酔いツアー（新見）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	東城まちあるき & つまみ食い利き酒ほろ酔いツアー（三次）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
2. 列車による観光コンテンツの形成等 ⑤企画乗車券等の設定	企画乗車券販売支援等	年間を通して実施とし、12ヶ月分の費用・効果を試算		
6. 既存事業の強化・支援	まちかどの近代建築写真展（東城、西城）	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	ヒバゴンと乗る芸備線	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	駅舎コンサートと東城レトロ	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	駅近利き酒	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
	第3回哲西の太鼓田植よいとこまつり	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		
※地域の関連事業	庄原 3 つの桜めぐりと桜花の郷ラ・フォーレ庄原	年1回実施とし、実証の費用・効果をそのまま計上		

*実証事業A内で各季節のツアーを実施したため、通年換算の考え方を変更

（２）①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

休日日中の増便は、約1,000万円の費用に対し、約3,400万円の効果が発生した

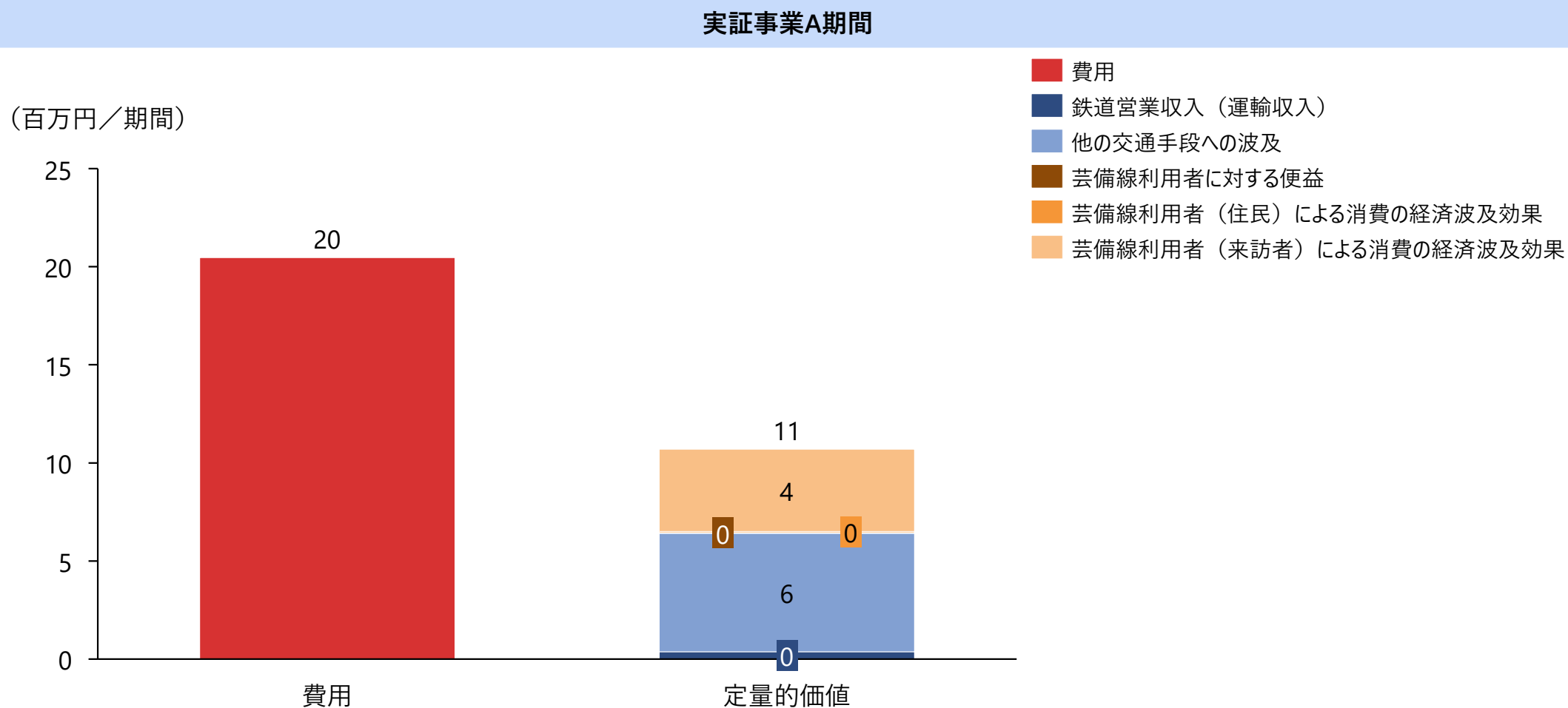
- 休日日中の増便は、乗車目的の利用が多いため、効果の多くが「他の交通手段への波及」であり、地域消費は限定的となった



(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

二次交通の運行は、約2,000万円の費用に対し、約1,100万円の効果が発生した

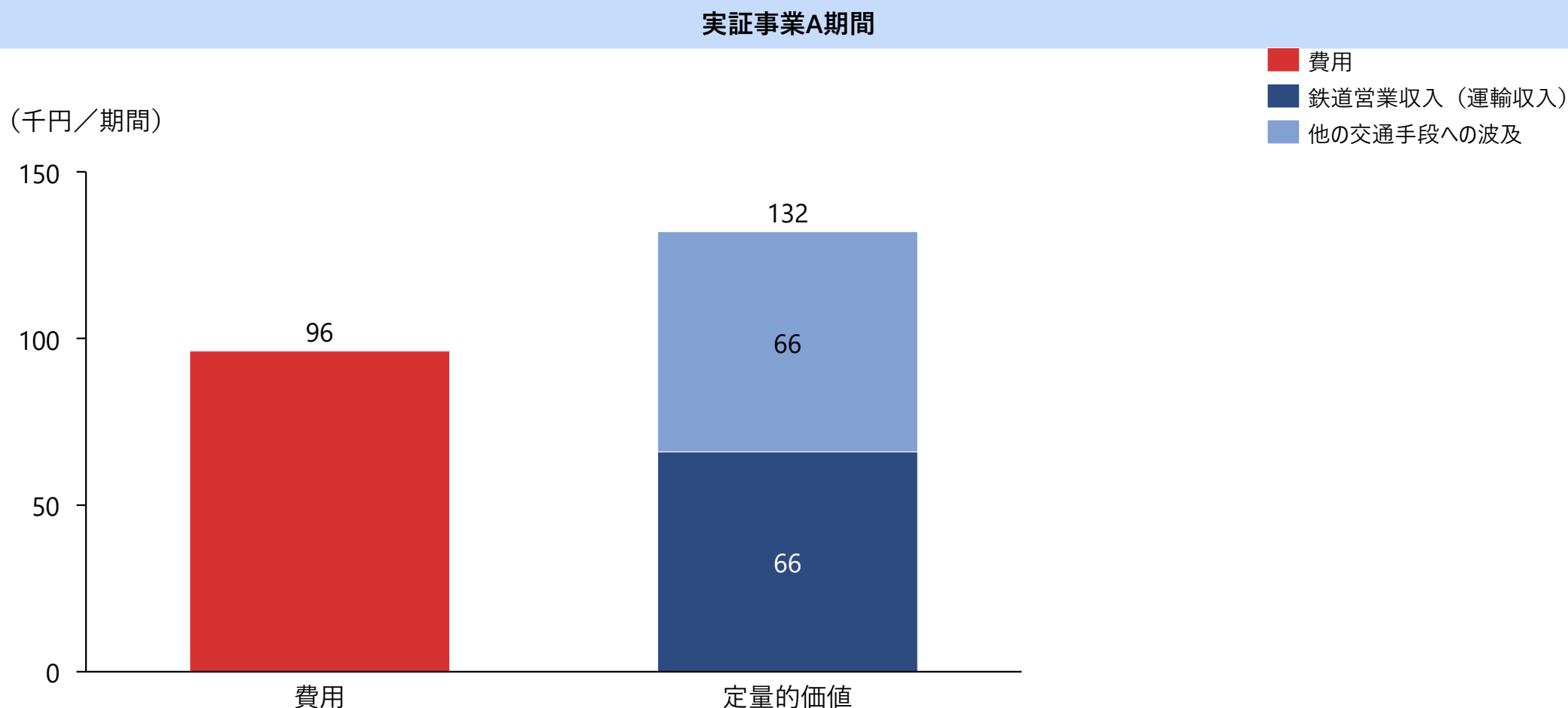
- 主に、来訪者向けの二次交通の設定による消費の経済波及効果と、他の交通手段への波及がみられた



(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

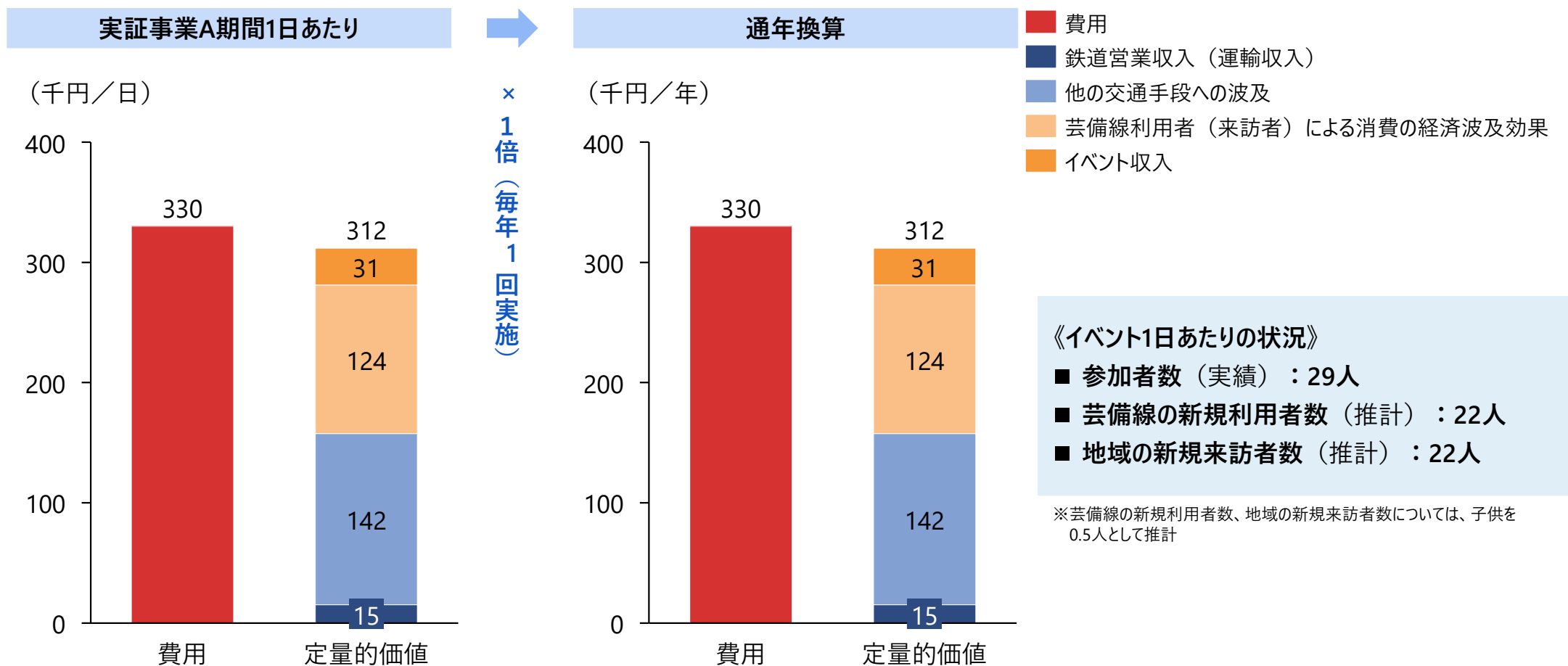
企画乗車券の販売支援は、約10万円の費用に対し、約13万円の効果が発生した

- 企画乗車券を利用して乗車した人の消費額等は、他の施策と重複が想定されることから、企画乗車券の売上高を効果とみなした
 - 鉄道とバスの収益配分は均等配分として試算した



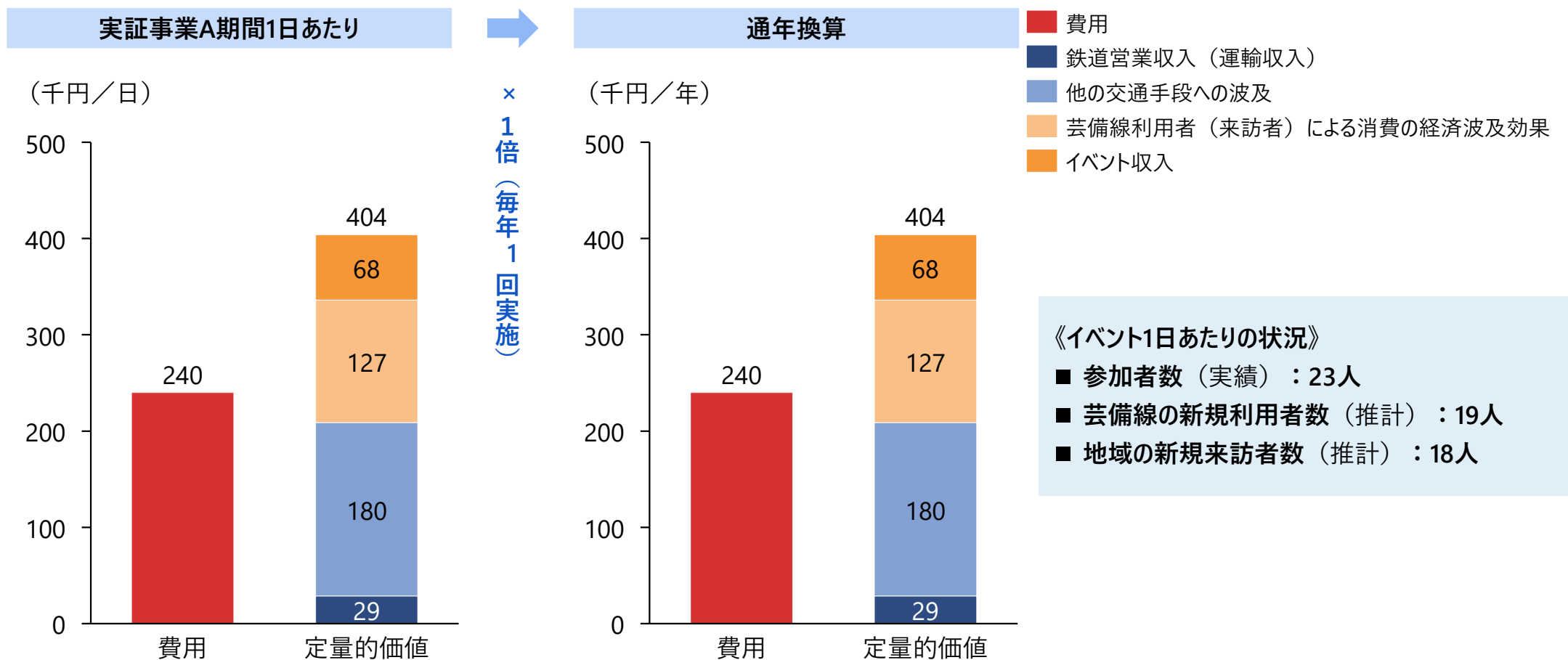
(1) 調査事業 A から派生する追加的な調査等 | 実証事業Aの効果検証結果

雪山感謝祭は、33万円の費用に対して31万円の効果が発生した



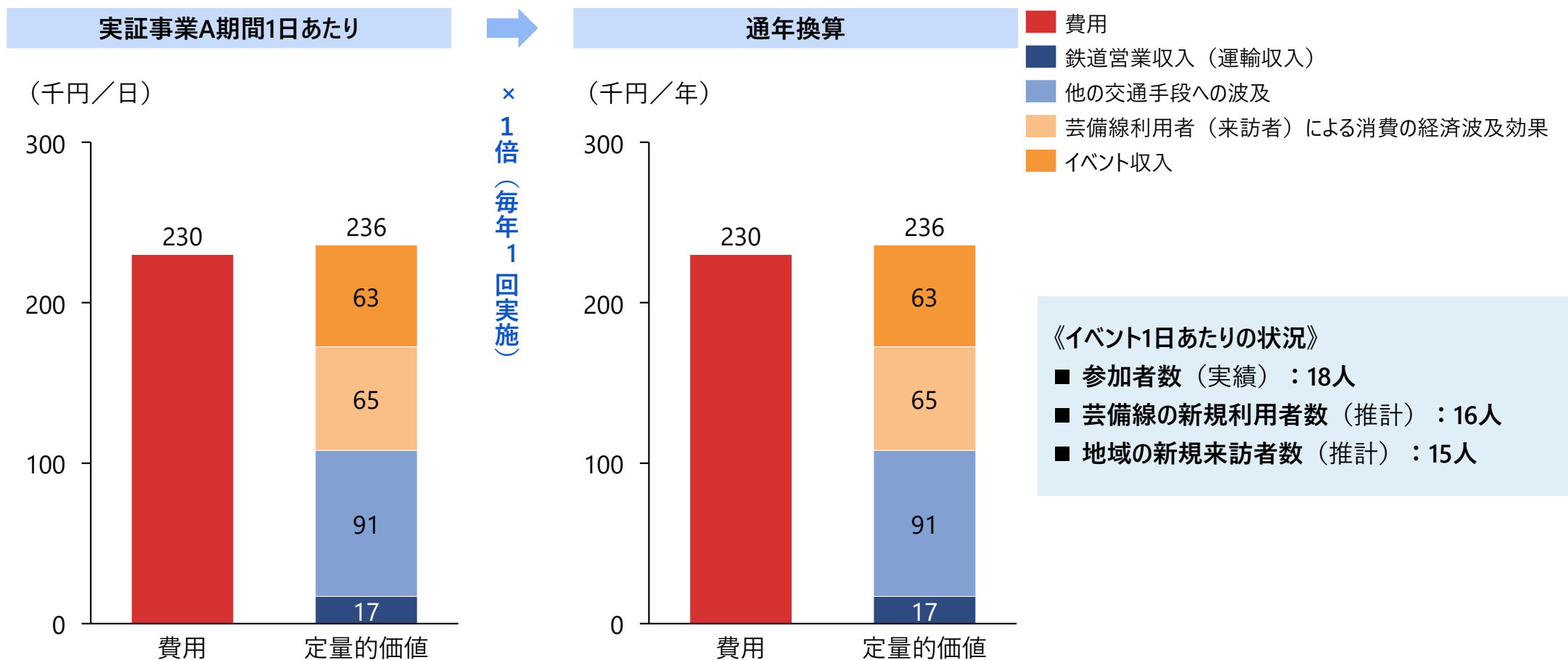
(1) 調査事業 A から派生する追加的な調査等 | 実証事業 A の効果検証結果

秘境駅をめぐる旅は、24万円の費用に対して40万円の効果が発生した



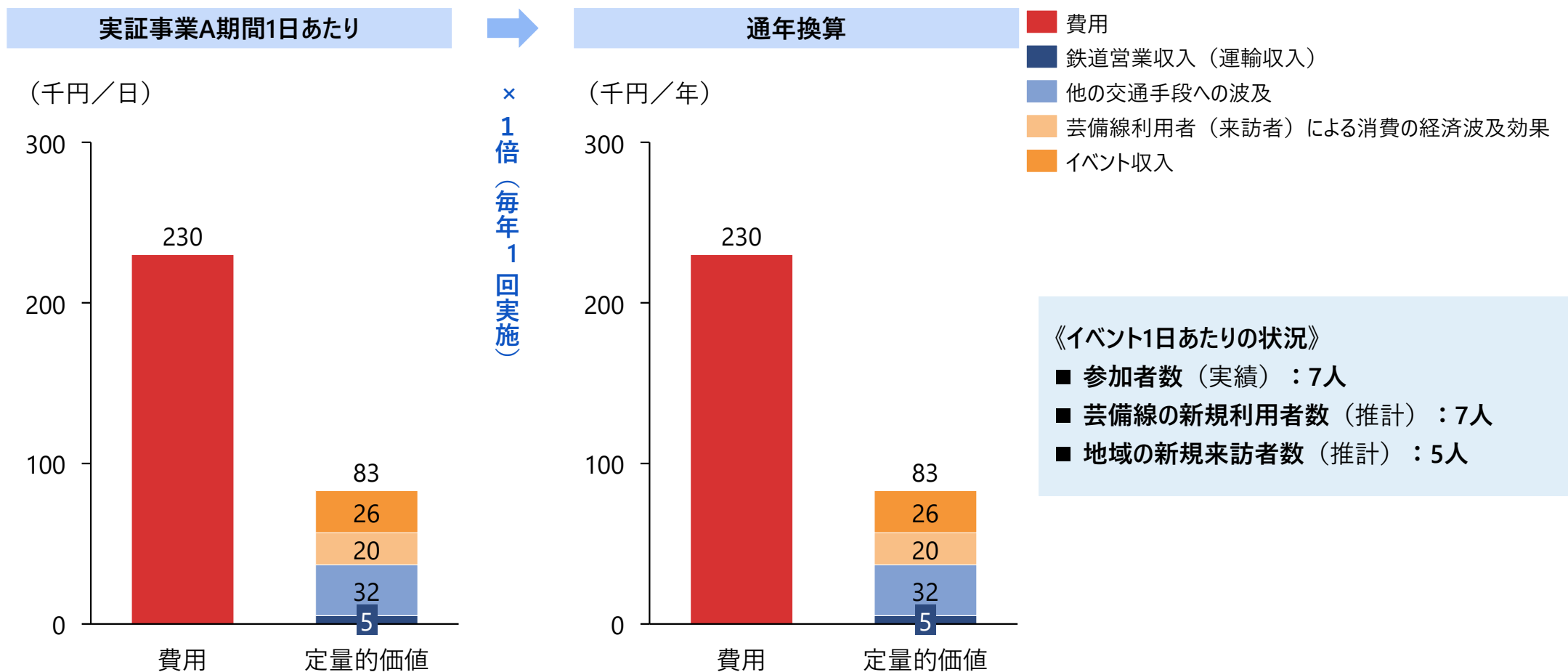
(1) 調査事業 A から派生する追加的な調査等 | 実証事業Aの効果検証結果

地酒を楽しむ旅（三次・庄原）は、23万円の費用に対して24万円の効果が発生した



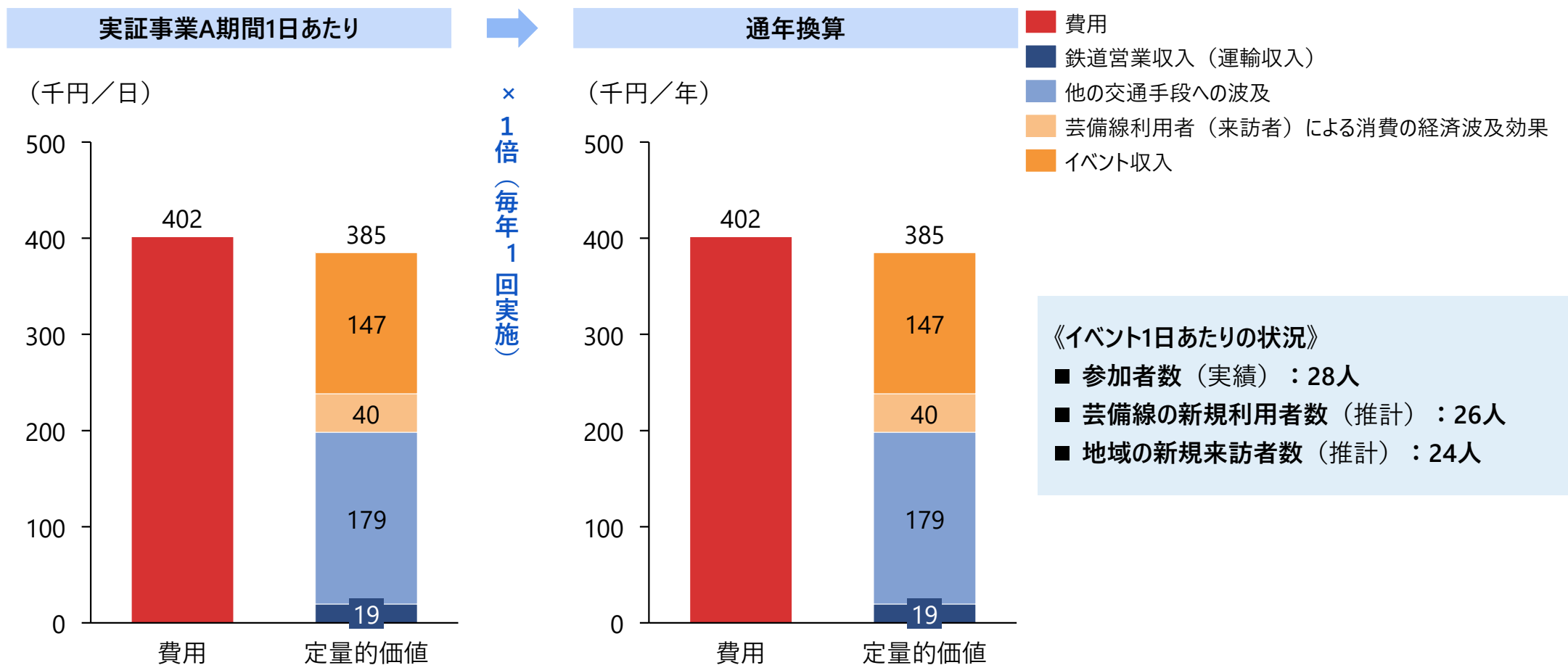
(1) 調査事業 A から派生する追加的な調査等 | 実証事業 A の効果検証結果

地酒を愉しむ旅（新見）は、23万円の費用に対して8万円の効果が発生した



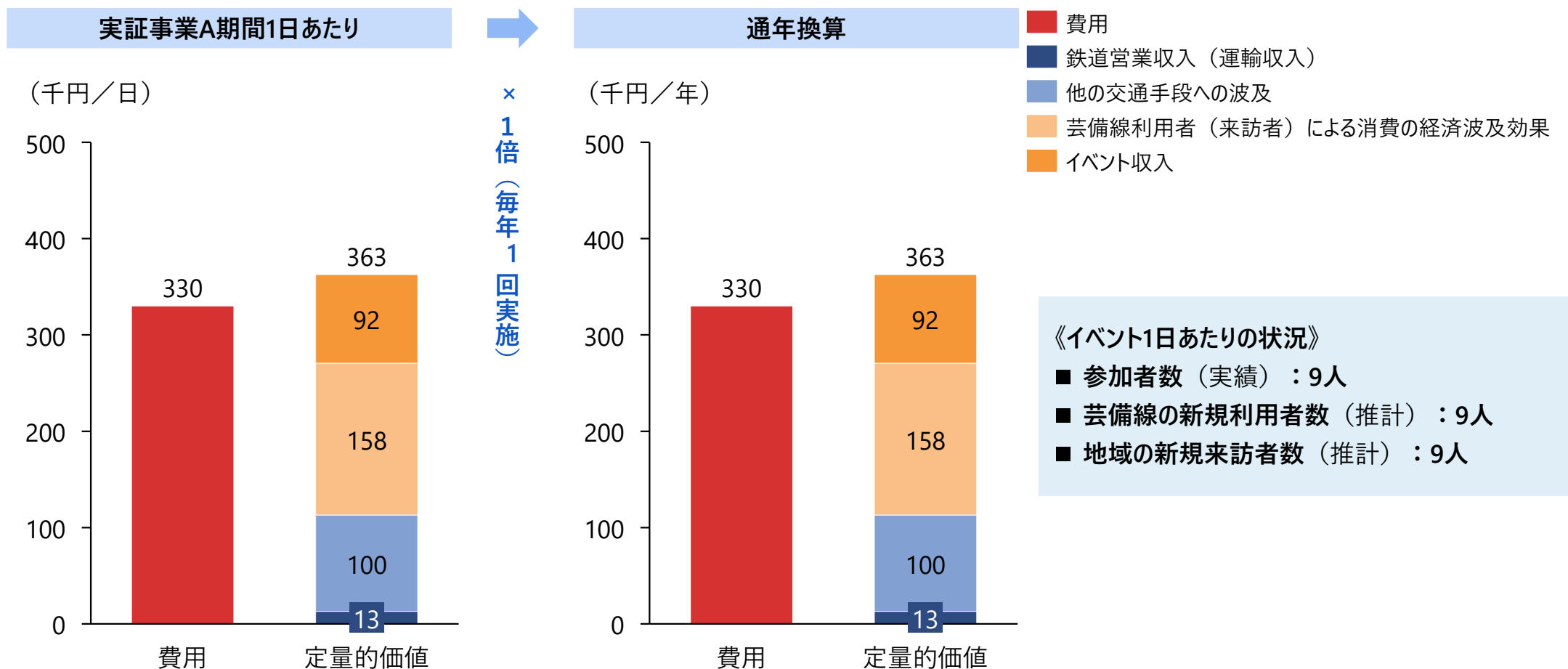
(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

二連原桜並木・蓮照寺シダレザクラの春を味わう旅は、
40万円の費用に対して38万円の効果が発生した



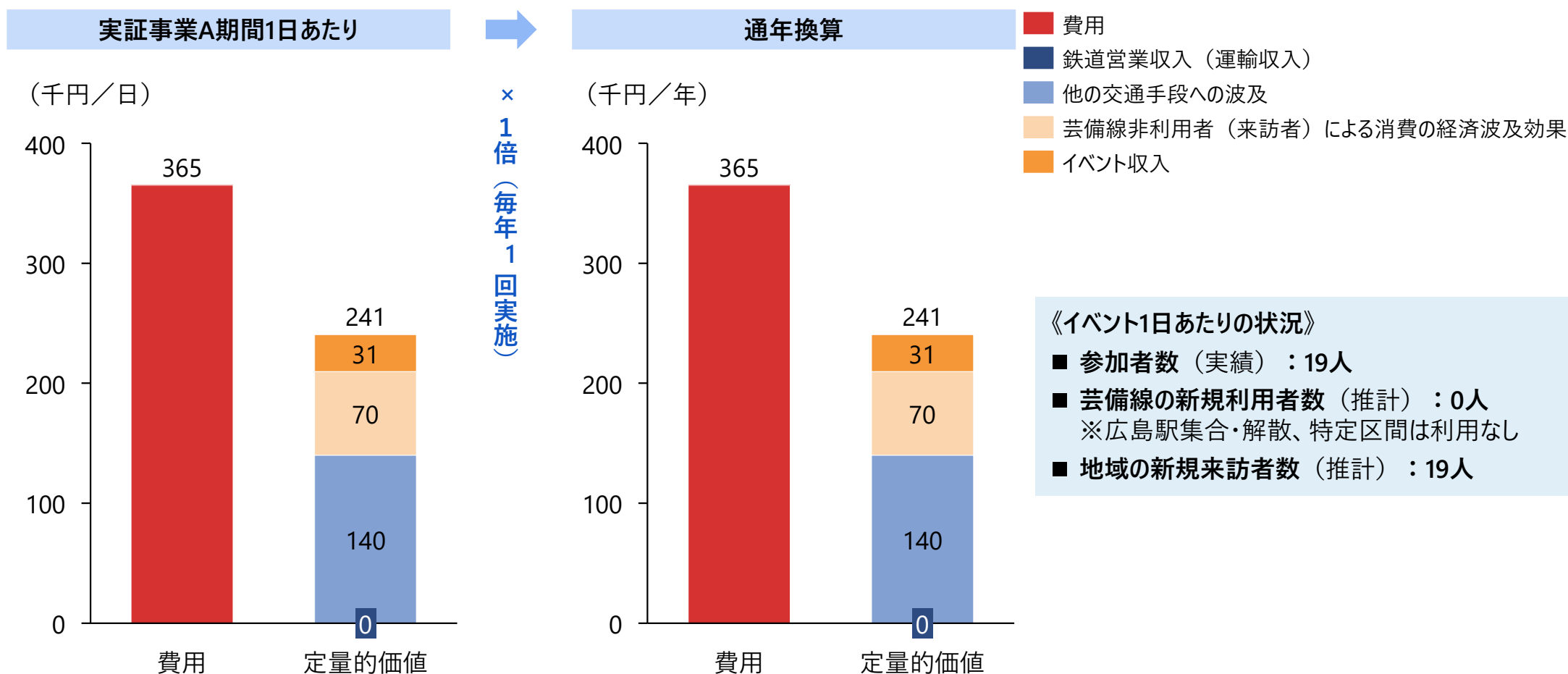
(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

東城三本桜と春を味わう旅は、33万円の費用に対して36万円の効果が発生した



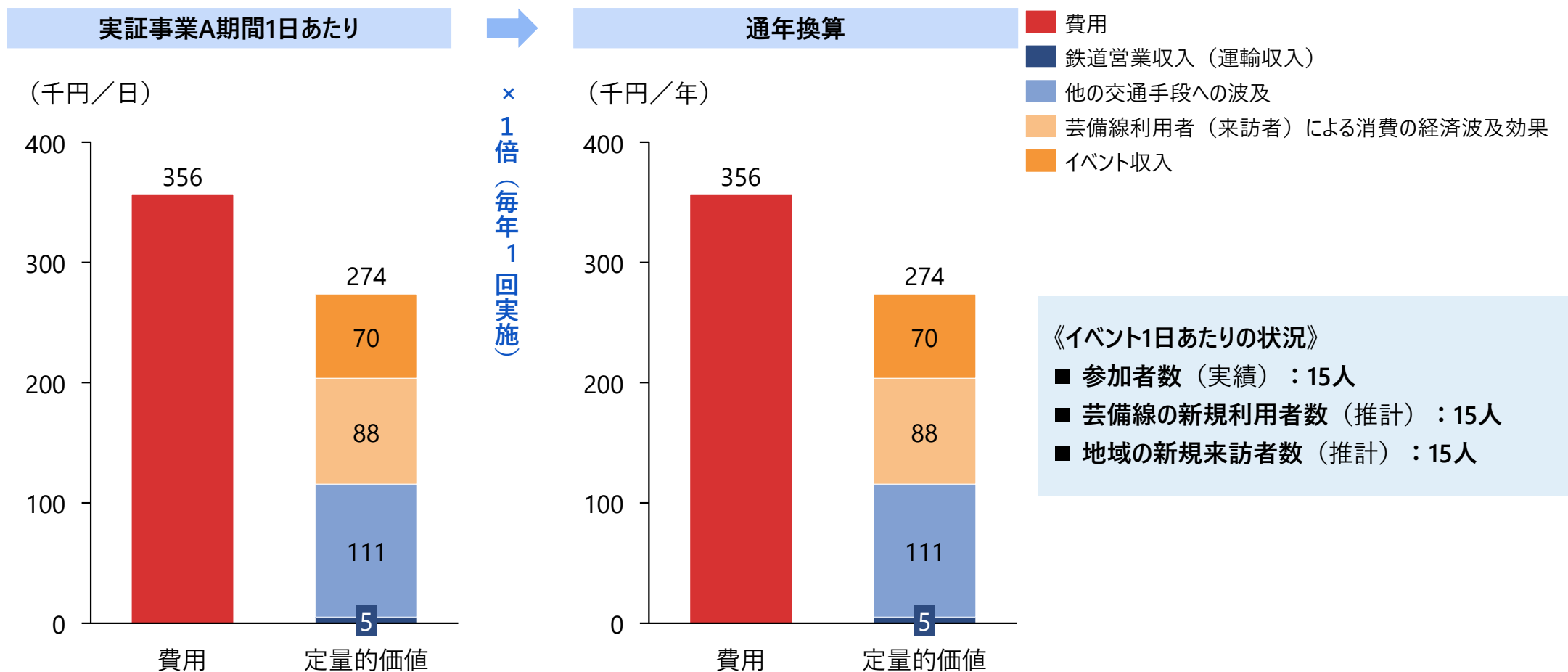
(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

初夏の庄原を味わい尽くすおいしい地元食材ツアーは、
37万円の費用に対して24万円の効果が発生した



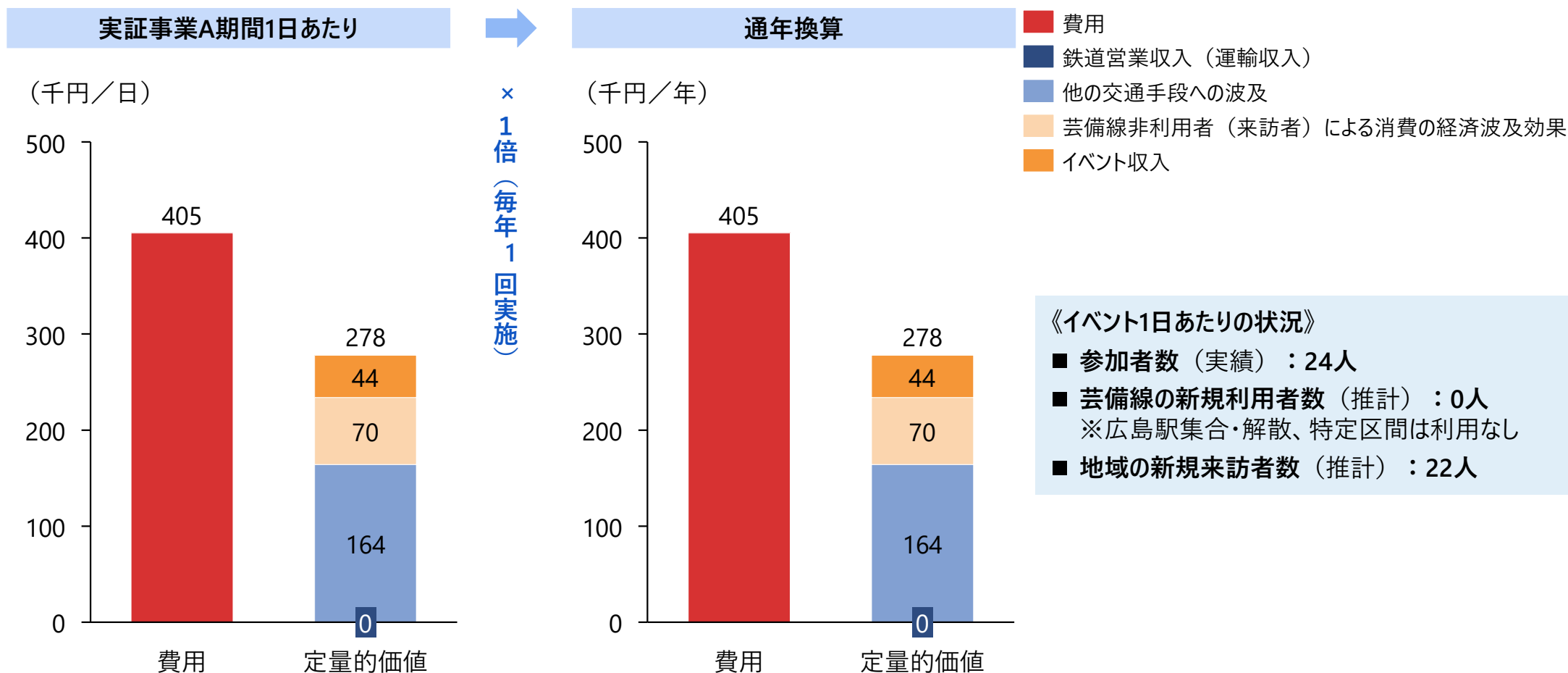
(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

新見ワインと食に浸る優雅ツアーは、36万円の費用に対して27万円の効果が発生した



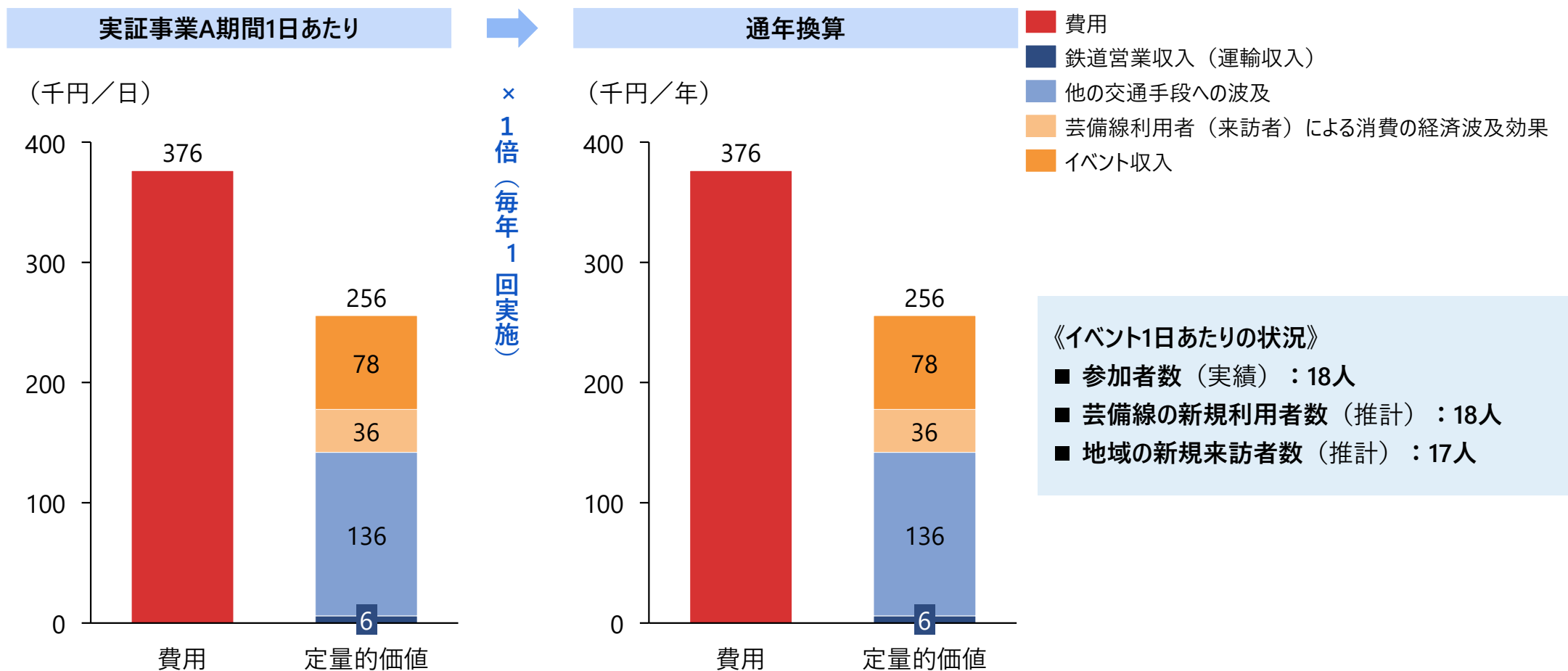
(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

今こそ景勝地！ 帝釈峡ガイドツアーは、41万円の費用に対して28万円の効果が発生した

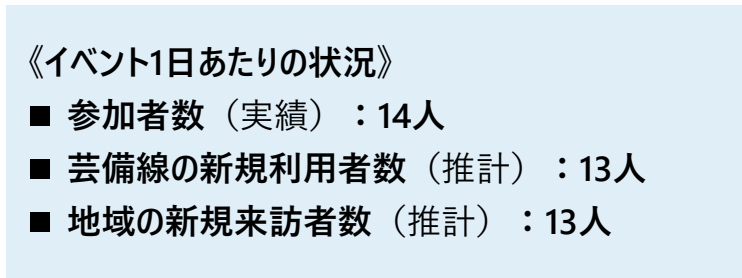


(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

自然体感・新見の魅力体感ツアーは、38万円の費用に対して26万円の効果が発生した

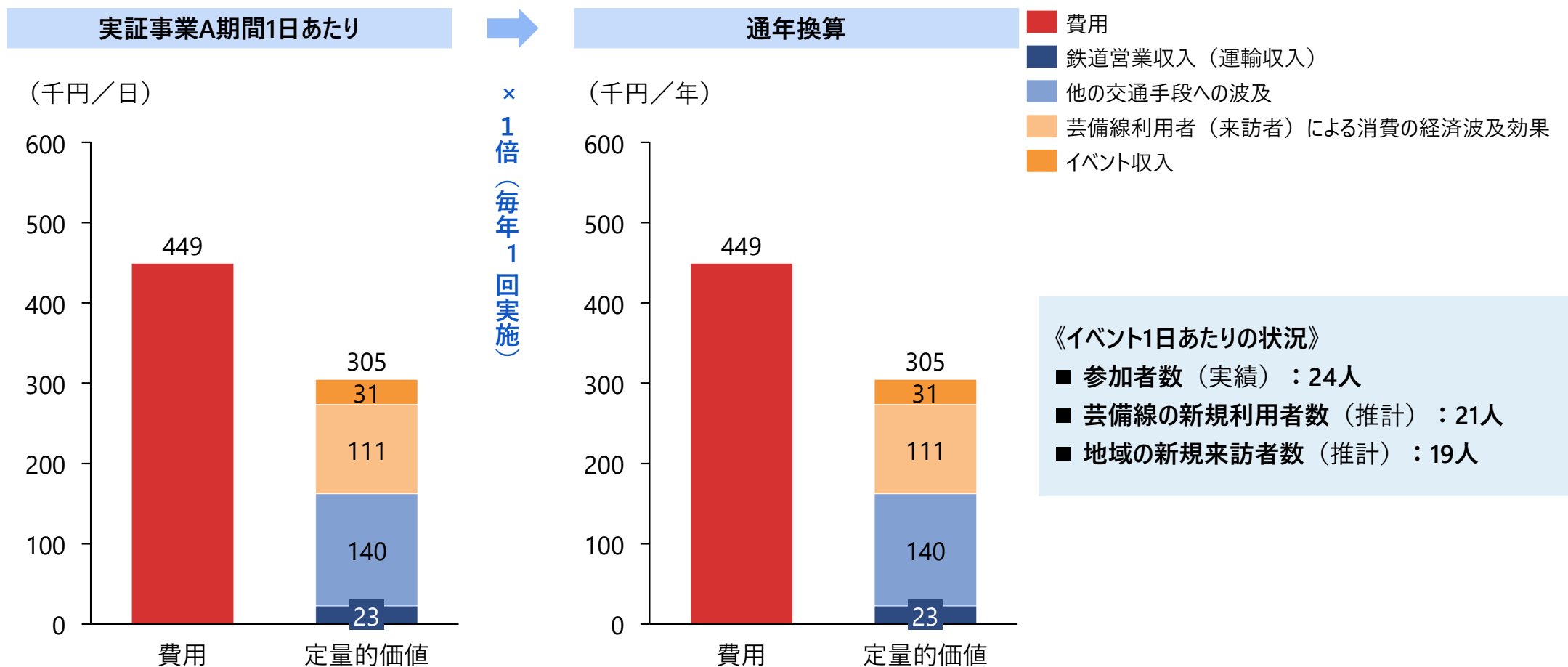


東城まちあるき & つまみ食い利き酒ほろ酔いツアー（新見）は、50万円の費用に対して22万円の効果が発生した。



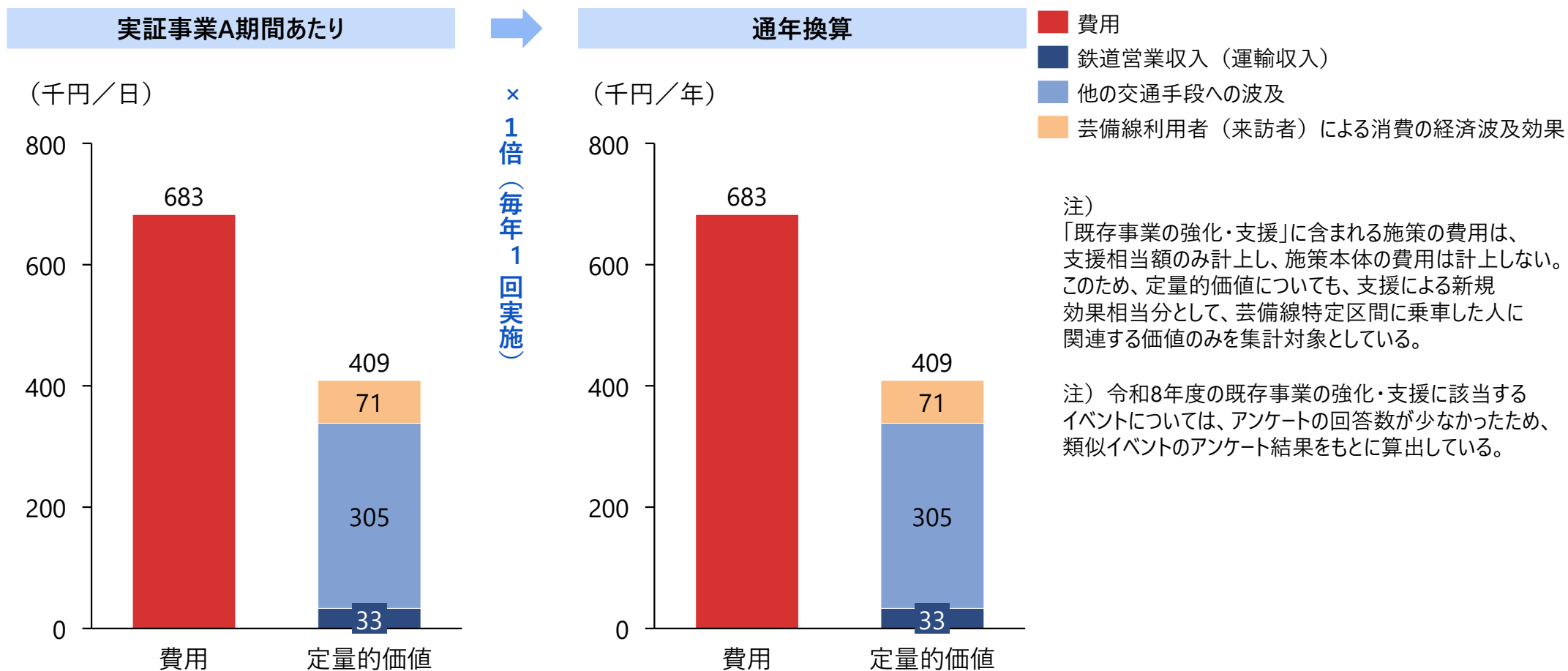
(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

東城まちあるき & つまみ食い利き酒ほろ酔いツアー（三次）は、
45万円の費用に対して30万円の効果が発生した。



(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

令和8年度の既存事業の強化・支援に該当するイベントについては、
68万円の費用に対して41万円の効果が発生した。



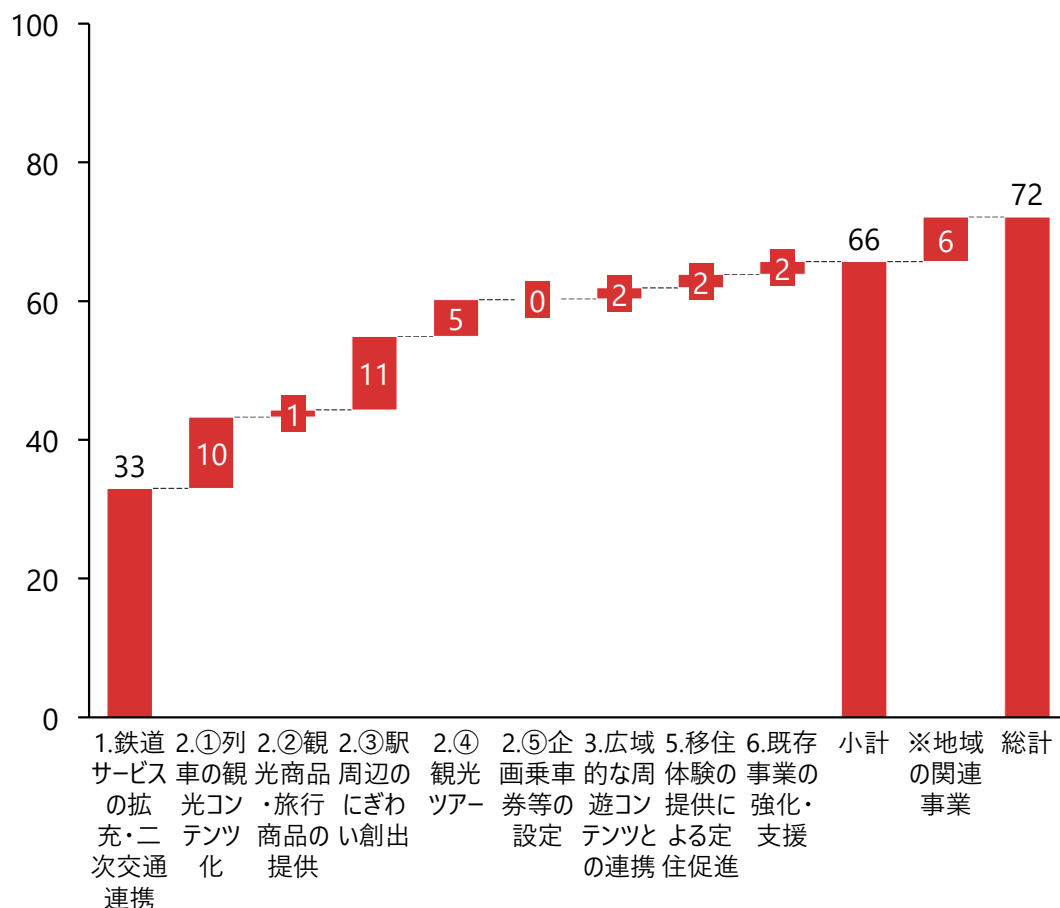
実証事業Aの効果検証結果（総括）

（２）①地域経済効果の比較検討 | 実証事業Aの効果検証結果

令和7年度から開始された実証事業Aは、
7,200万円の費用に対して、8,700万円の効果が発生した

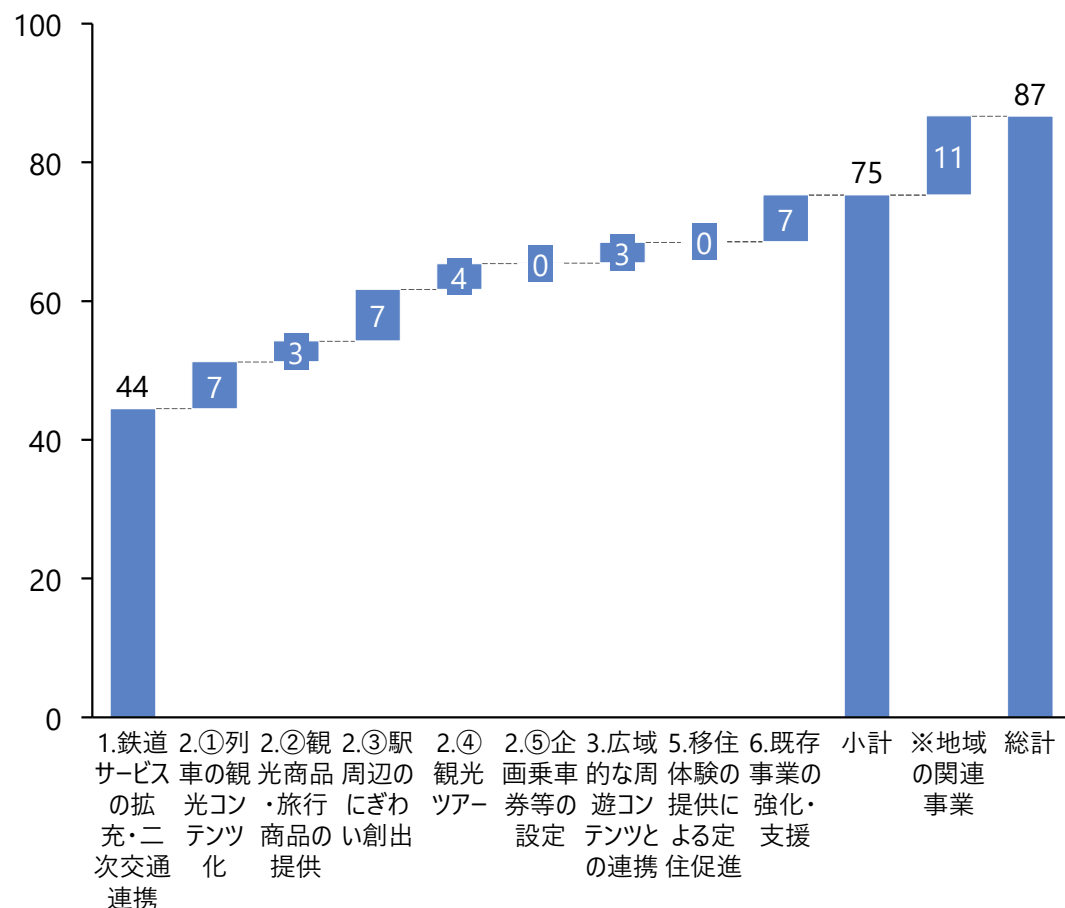
実証事業Aの費用

(百万円)



実証事業Aの効果

(百万円)

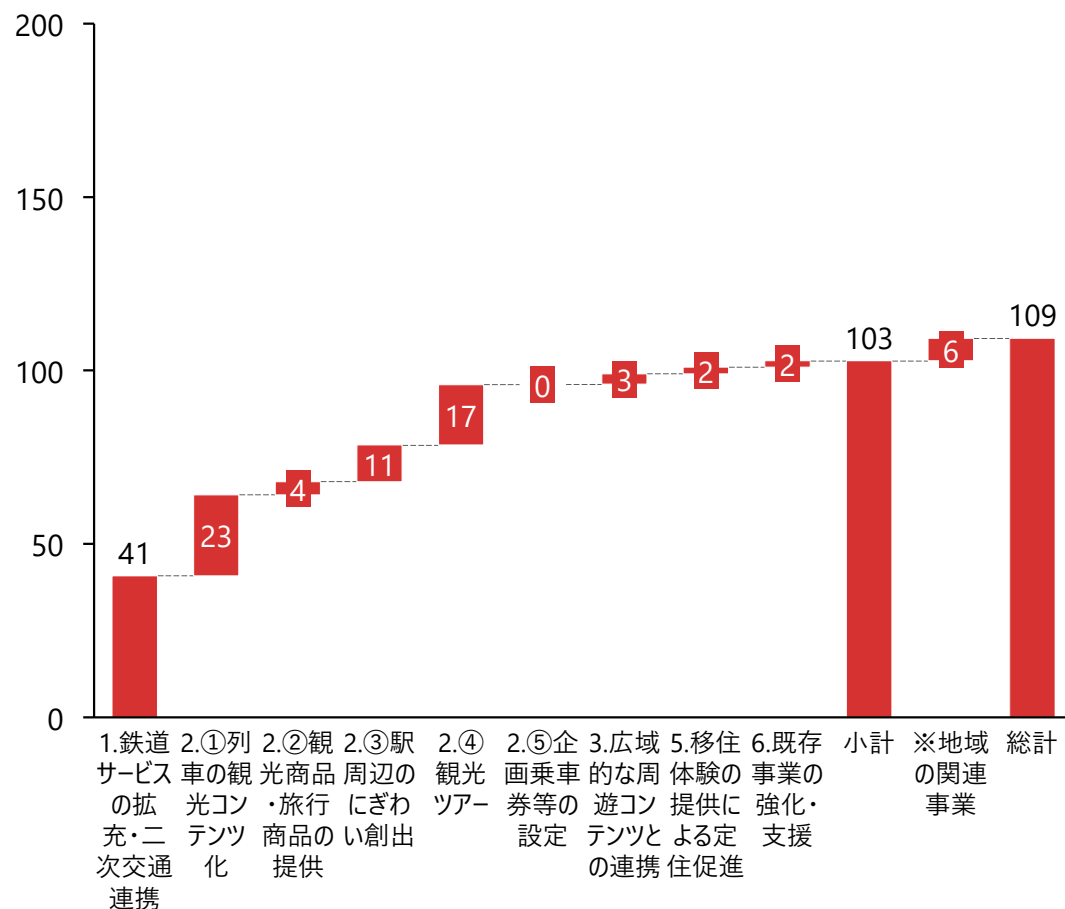


（２）①地域経済効果の比較検討 | 実証事業A相当の施策を恒久化した場合の費用と効果

実証事業A相当の施策を恒久化した場合、
 通年換算で約109百万円の費用に対して、約135百万円の効果が発生する

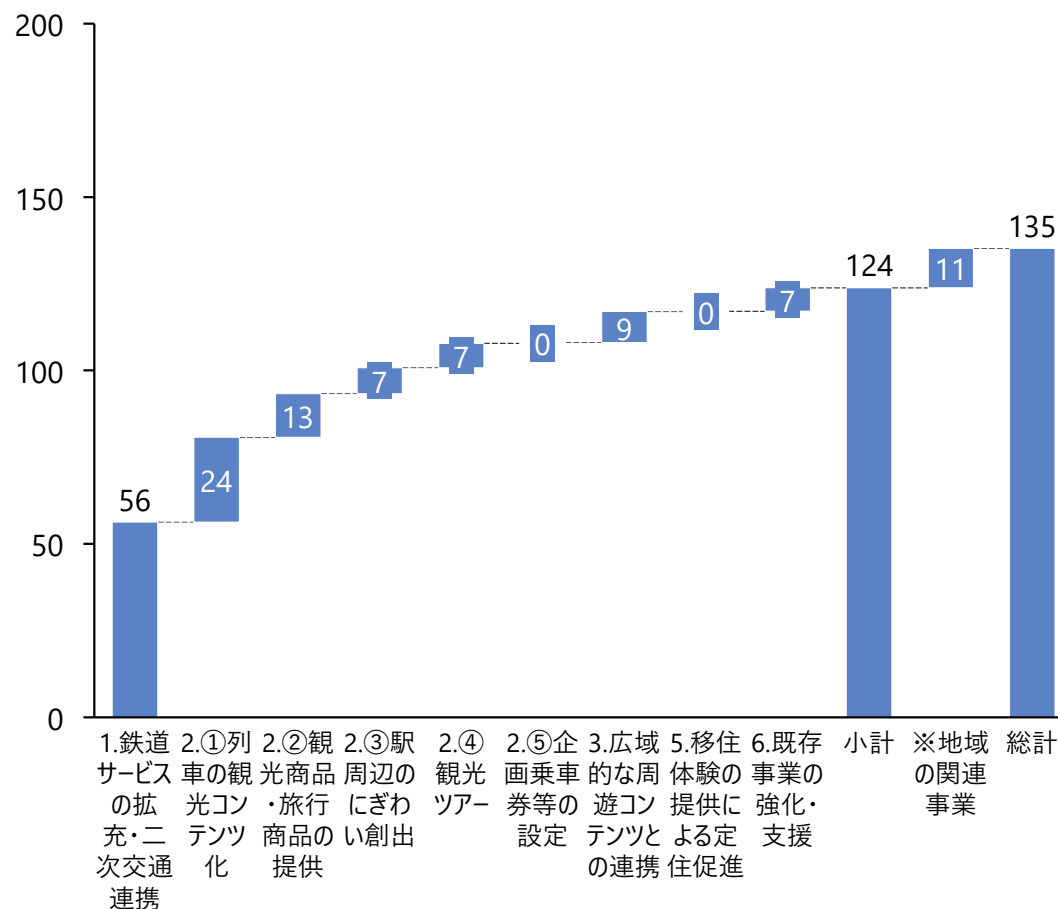
実証事業A相当を恒久化した場合の費用（通年換算）

（百万円）



実証事業A相当を恒久化した場合の効果（通年換算）

（百万円）



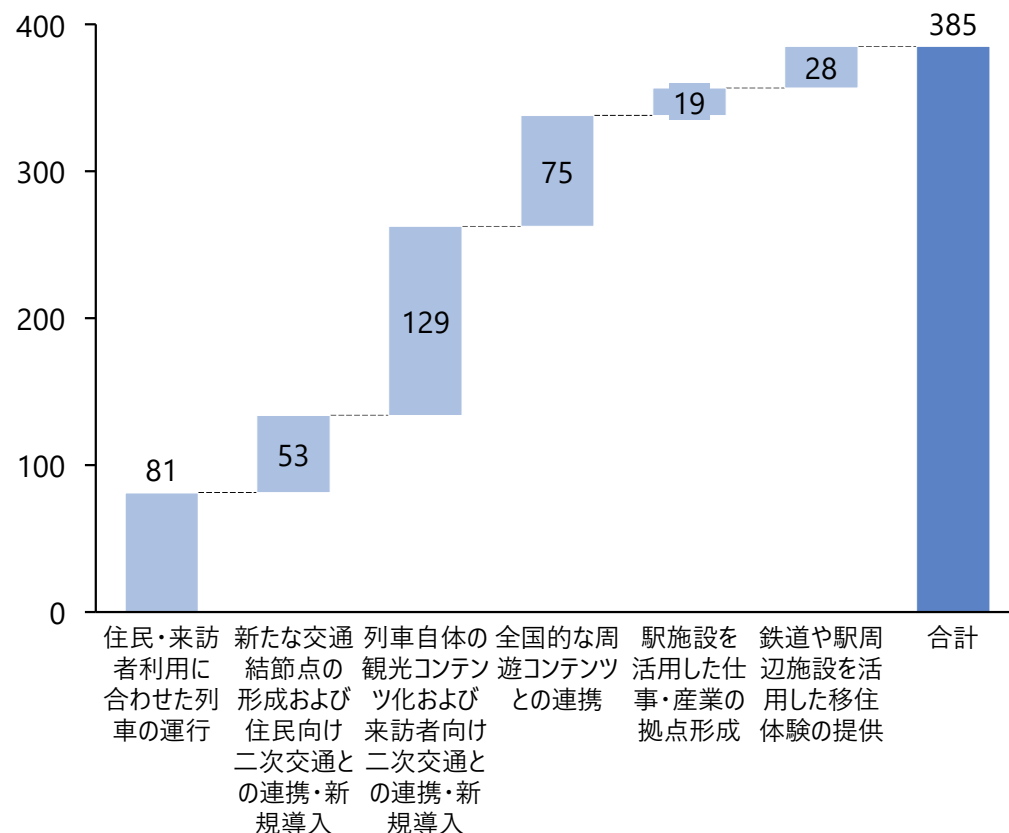
（２）①地域経済効果の比較検討 | 実証事業A相当の施策を恒久化した場合の費用と効果

来訪者の多くが芸備線の乗車自体を目的としたことで消費単価が伸び悩み、
実証事業Aの効果は、令和6年度検討の見込値と比較して4割以下に留まる結果となった

令和6年度検討における見込値

実証事業A相当を恒久化した場合の効果（通年換算）

（百万円）



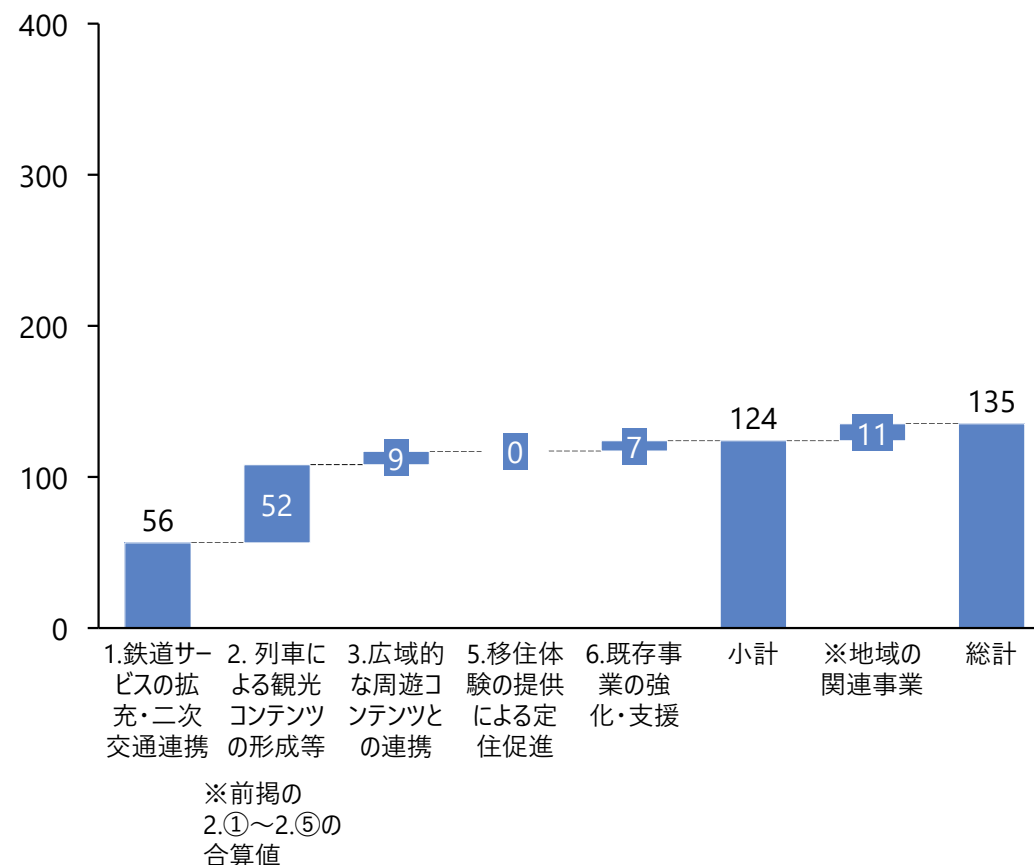
検証結果との対応関係

1.に相当 1.に相当 2.に相当 3.に相当 机上検証 5.に相当

検証結果

実証事業A相当を恒久化した場合の効果（通年換算）

（百万円）



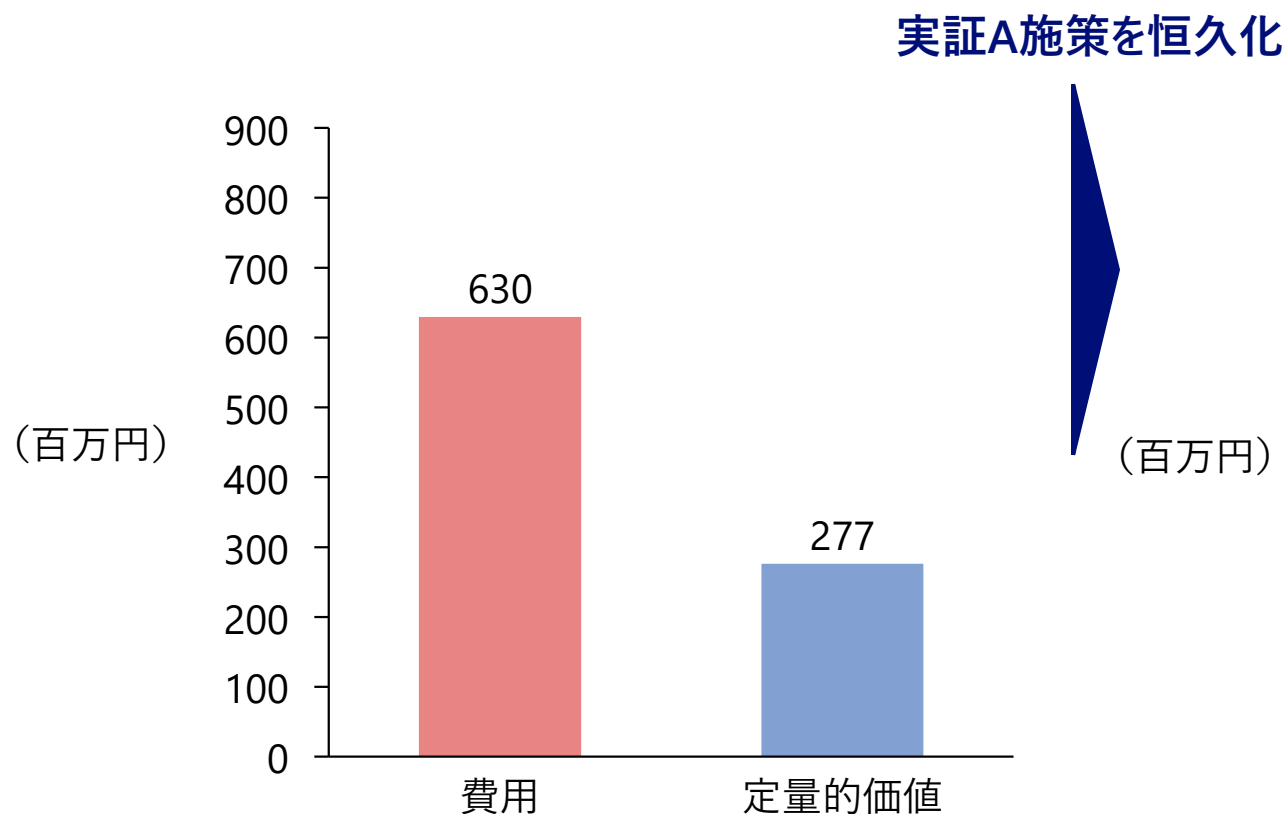
（２）①地域経済効果の比較検討 | 実証事業A相当の施策を恒久化した場合の費用と効果

実証前の費用・効果と合算し、再構築に要する費用も加味すると、
通年換算では約8.3億円の営業費用に対し、約4.1億円の定量的価値となる

注）鉄道再構築費用は、令和7年度に「実証A相当」として試算した初期投資9.8億円の減価償却費（耐用年数11年、償却後も含めた15年平均）と、固定資産税の変動約400万円を計上。なお、「増便の恒久化」および「観光列車の運行」に係る運営費用は、実証A相当費用と重複することから控除している

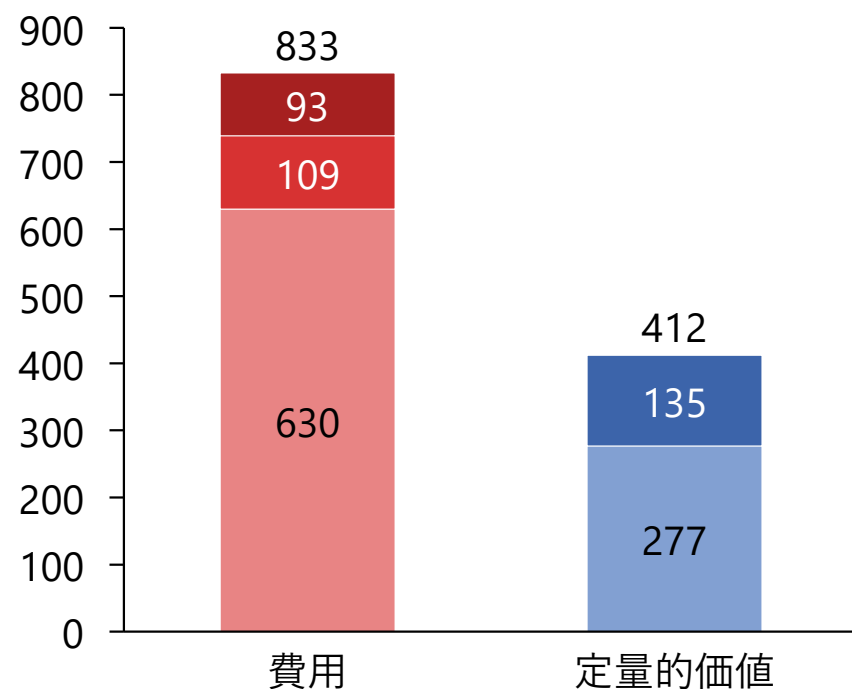
実証前の費用・定量的価値

■ 現状の定量的価値
■ 現状の鉄道営業費用



実証事業A相当を恒久化した場合の費用・定量的価値

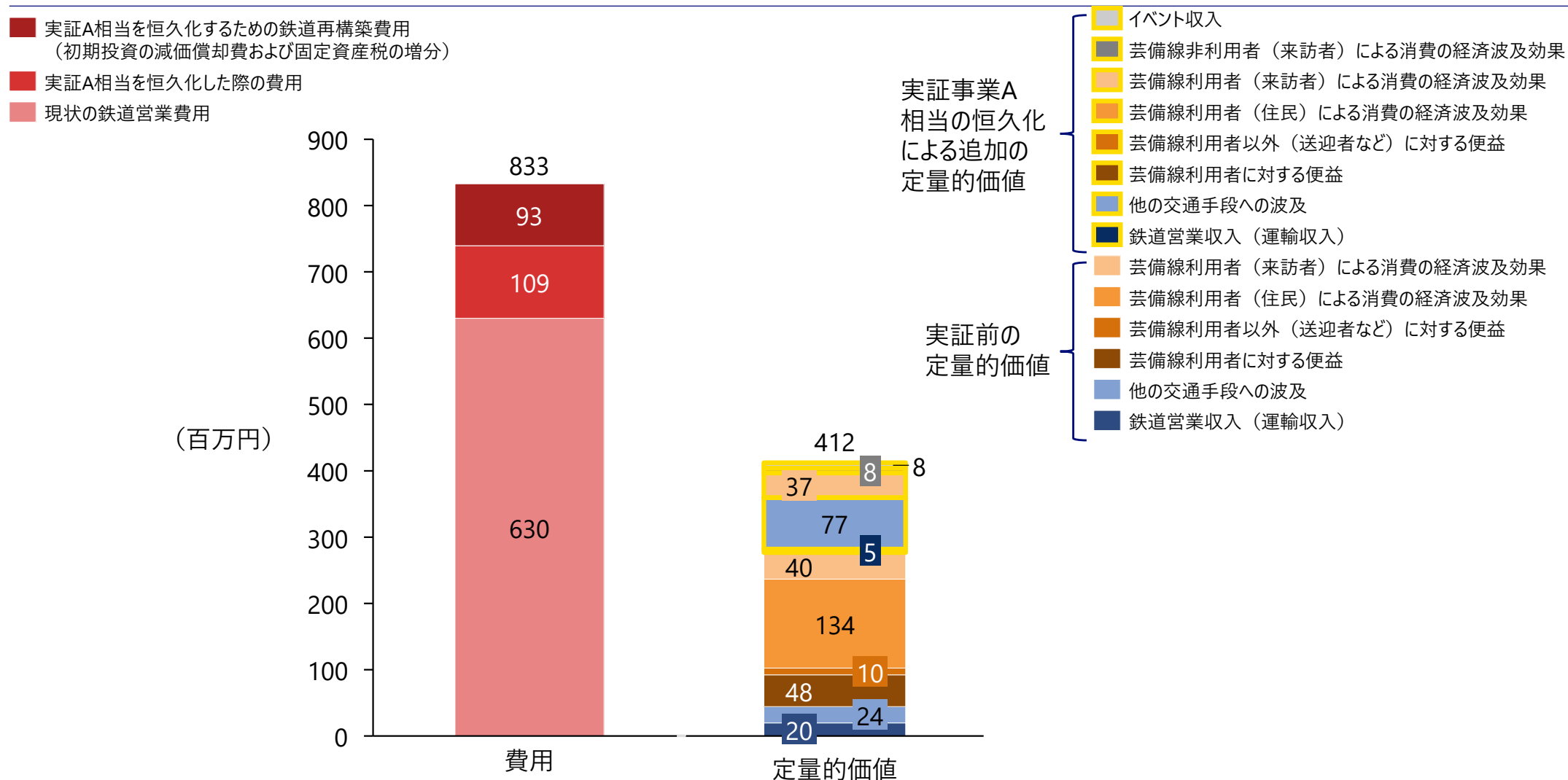
■ 実証Aを恒久化した場合の定量的価値
■ 現状の定量的価値
■ 実証A相当を恒久化するための鉄道再構築費用
（初期投資の減価償却費および固定資産税の増分）
■ 実証A相当を恒久化した場合の費用
■ 現状の鉄道営業費用



（２）①地域経済効果の比較検討 | 実証事業A相当の施策を恒久化した場合の費用と効果

【参考】実証事業Aを恒久化した場合の費用・定量的価値の詳細

実証事業A相当を恒久化した場合の費用・定量的価値（詳細）



(2) ①地域経済効果の比較検討 | 実証事業A相当の施策を恒久化した場合の費用と効果

**実証事業A相当を恒久化させたとしても、年間費用に対して定量的価値が下回る状態。
また、追加で発生する定量的価値のうち、地域が受益する部分は約4割にとどまる**

実証事業Aの総括

実証の成果

- ・ 個別施策については、休日の増便や、駅・駅周辺の大規模イベントなど、一定の集客に繋がったものが存在した
- ・ 実証事業A単体では、費用7,200万円に対して、定量的価値は8,700万円と、費用を定量的価値が上回った
- ・ 実証事業Aの取組が、住民の自信を育み、地域の団結や交流を深めているとの声が挙がっており、芸備線の存在が地域の絆や活力の醸成に繋がっていることが示唆された

実証の課題

- ・ 実証事業Aの内容を恒久化させたとしても、年間営業費用8.3億円に対して、定量的価値は4.1億円となることが想定される
- ・ 実証事業Aで新たに生まれた定量的価値の約6割は「他の交通手段への波及」が占めており、地域が受益する価値は約4割にとどまる
- ・ これらの原因として、実証事業Aの効果は「芸備線の乗車自体が目的」の来訪者の増加による部分が多く、地域における消費が伸び悩んだ点が大きい
- ・ また、住民向けの二次交通・芸備線のダイヤ変更等は、本数や運行時間帯の制約もある中で、利用が伸び悩み、住民の日常利用におけるニーズには十分に応えることができなかった

■ 調査事業の実施内容

■ （１）実証事業A・実証事業Bを補完するデータの収集

（２）地域経済効果の比較検討等による総合的な分析

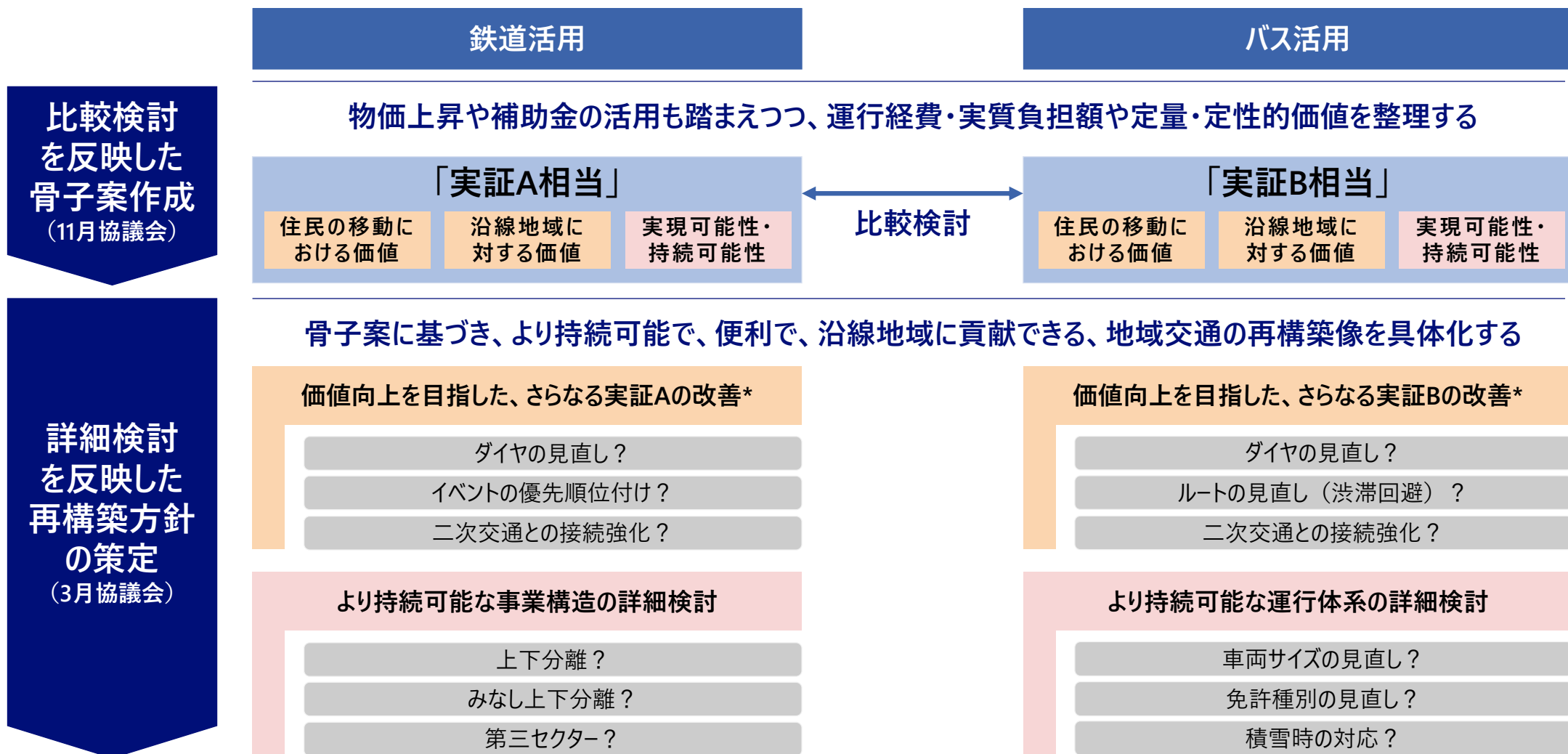
- ①地域経済効果の比較検討

- ②最適な交通モードの判断に当たっての論点整理

(2) ②最適な交通モードの判断に当たっての論点整理 | 比較検討対象モード・比較検討の流れ

比較検討する鉄道とバスのサービス内容は「実証A相当」と「実証B相当」としつつ、
骨子案提示後の意見聴取や構成員間の協議等を踏まえて、更なる改善に取り組む

比較検討のイメージ



*具体的な論点については今後追加余地あり

(2) ②最適な交通モードの判断に当たっての論点整理 | 比較検討の論点

これまでの分析報告では全ての定量的価値を積み上げて費用と比較していたが、比較検討では、詳細検討で注目していく箇所を可視化するために、価値・費用を個別に分割する

比較検討項目（案）

大分類	中分類・小分類		従来の項目	構成員の意見を踏まえて追加する項目
住民の移動における価値	芸備線利用者に対する便益		○	
沿線地域に対する価値	芸備線利用者以外（送迎者等）に対する便益		○	
	住民による消費の経済波及効果		○	
	来訪者による消費の経済波及効果		○	
	芸備線がもたらしてきた定性的価値	まちや住民の暮らしにとっての価値	○	
		地域の経済や観光にとっての価値	○	
	地域のまちづくり方針との整合性			○
実現可能性・持続可能性	費用負担	初期投資、運営費	○	
	ヒトの供給制約	運行・保守人員、イベント運営人員の確保		○
	リスク対応	災害リスク・気象リスクへの対応力		○

※比較検討項目の粒度に関しては、実証結果を踏まえて最終決定を行う